

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

報告事項件名

頁

(教育指導部)

- | | |
|--|----|
| (1) ミライの“学び”をデザイン！「あだち中学生会議」の実施結果について… | 2 |
| (2) 令和6年度「足立区学力定着に関する総合調査」の調査結果（学習意識調査部分）について… | 6 |
| (3) 令和7年度SSR（スモール・ステップ・ルーム）設置予定校について…… | 16 |
| (4) スクールロイヤールー法律相談の実施状況と周知について…………… | 19 |
| (5) 【追加】「令和6年度水泳指導実施状況調査」報告について…………… | 22 |
| (6) 登校サポーターの従事時間変更について…………… | 24 |

(学校運営部)

- | | |
|---|----|
| (7) 登下校通知メールシステム「ミマモルメ」のシステム障害について…………… | 25 |
| (8) 通学路安全マップの完成及び配付について…………… | 28 |
| (9) 令和6年度貧血・小児生活習慣病予防健診の実施について…………… | 31 |
| (10) おいしい給食事業のPRについて…………… | 34 |
| (11) 校外施設指定管理者評価結果について…………… | 36 |

(教 育 委 員 会)

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

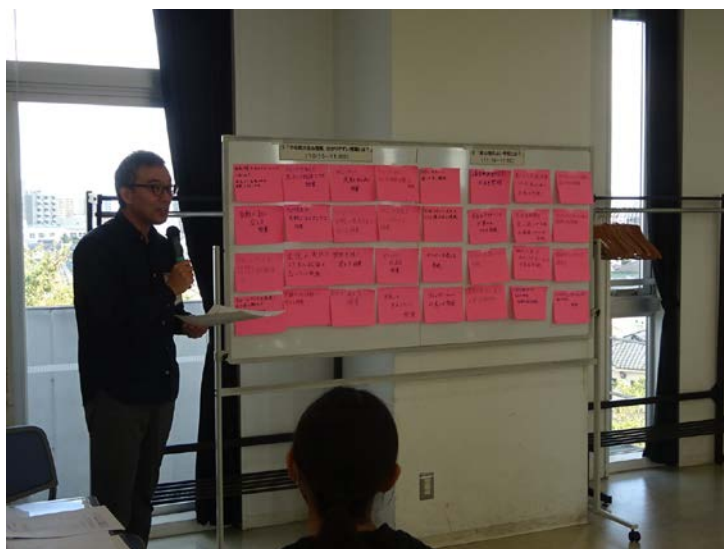
件名	ミライの“学び”をデザイン！「あだち中学生会議」の実施結果について								
所管部課名	教育指導部教育政策課								
内容	教育振興ビジョンの改訂に向けて、子どもの意見を聴取する場として令和6年10月14日に開催した「あだち中学生会議」の結果について、以下のとおり報告する。 1 考察（多くの生徒に共通する意見） 生徒から寄せられた意見を総合すると次の2点に集約される（意見等の詳細はP3以降参照）。 （1）テーマ1：やる気の出る、理解のしやすい授業 <table border="1"> <tr> <td>生徒の考え</td><td>教師主導の授業ではなく、<u>生徒が自ら考え、仲間と意見交換をして考えを深めていく授業</u>が生徒にとって、積極的になれたり、理解がしやすい。</td></tr> <tr> <td>方向性</td><td>主体的・対話的で深い学びを実現する方策である、自ら考え生徒同士学び合う「足立スタンダード」を基盤とした授業改善をいっそう進める必要がある。</td></tr> </table> （2）テーマ2：居心地のよい学校 <table border="1"> <tr> <td>生徒の考え</td><td><u>生徒は先生と距離感を感じている</u>。また、校則の改正をはじめとして <u>生徒が意見を表明し、これが生かされる場</u>や、居場所の確保も含めた <u>学校での困りごとを気軽に相談できる相談体制</u>の整備も求めている。</td></tr> <tr> <td>方向性</td><td>生徒と教員、又は生徒同士で認め合い、意見を言いやすい雰囲気づくりや、生徒の困りごとを受け止める体制も必要。そうした心理的安全性を基盤として、校則改正など自分たちの意見を出し合い、問題を解決できる環境を整えることが生徒のウェルビーイング向上にも寄与すると考えられる。</td></tr> </table> 2 今後の方針 現在作業中である教育振興ビジョンの改訂（始期：令和7年度）にあたり、今回の意見を踏まえ、授業づくりとウェルビーイングの2つの視点から反映させていく。 これに加えて各学校における各取組をブラッシュアップするため、今回の結果を、校長会を通じて学校に周知していく。	生徒の考え	教師主導の授業ではなく、 <u>生徒が自ら考え、仲間と意見交換をして考えを深めていく授業</u> が生徒にとって、積極的になれたり、理解がしやすい。	方向性	主体的・対話的で深い学びを実現する方策である、自ら考え生徒同士学び合う「足立スタンダード」を基盤とした授業改善をいっそう進める必要がある。	生徒の考え	<u>生徒は先生と距離感を感じている</u> 。また、校則の改正をはじめとして <u>生徒が意見を表明し、これが生かされる場</u> や、居場所の確保も含めた <u>学校での困りごとを気軽に相談できる相談体制</u> の整備も求めている。	方向性	生徒と教員、又は生徒同士で認め合い、意見を言いやすい雰囲気づくりや、生徒の困りごとを受け止める体制も必要。そうした心理的安全性を基盤として、校則改正など自分たちの意見を出し合い、問題を解決できる環境を整えることが生徒のウェルビーイング向上にも寄与すると考えられる。
生徒の考え	教師主導の授業ではなく、 <u>生徒が自ら考え、仲間と意見交換をして考えを深めていく授業</u> が生徒にとって、積極的になれたり、理解がしやすい。								
方向性	主体的・対話的で深い学びを実現する方策である、自ら考え生徒同士学び合う「足立スタンダード」を基盤とした授業改善をいっそう進める必要がある。								
生徒の考え	<u>生徒は先生と距離感を感じている</u> 。また、校則の改正をはじめとして <u>生徒が意見を表明し、これが生かされる場</u> や、居場所の確保も含めた <u>学校での困りごとを気軽に相談できる相談体制</u> の整備も求めている。								
方向性	生徒と教員、又は生徒同士で認め合い、意見を言いやすい雰囲気づくりや、生徒の困りごとを受け止める体制も必要。そうした心理的安全性を基盤として、校則改正など自分たちの意見を出し合い、問題を解決できる環境を整えることが生徒のウェルビーイング向上にも寄与すると考えられる。								

【以下、会議での主な意見、アンケート結果等を掲載】

3 会議における主な意見

（多くのグループで取り上げられていたポイントを抜粋）

教育長・教育委員がコーディネート役となり、5グループに分かれて意見を交換した。概ねどのグループからも共通して出された意見は以下のとおり。



※ 上記のようにそれぞれ生徒が良いと思った意見を記載した付箋をボードに貼付するなどして意見を交換し合った。

（1）授業の進め方について（積極的になれる授業・理解しやすい授業）

ア 協働的な学びに関するもの【5／5グループ】

例	グループで考えや思ったことを発表できる授業
理由	他の人の意見も聞くことができ、自分の考えを深めることができる。また、分からないことを友達に聞くことができる

イ 生徒主体の授業・伴走型の授業に関するもの【3／5グループ】

例	自分たちで考えを深める授業
理由	説明だけだと何も考えずにノートに写すだけになってしまう。自分で考えるから自分のわからないところに気づける。

ウ 五感を使った授業に関するもの【3／5グループ】

例	動画を見たり、実験をする授業
理由	言葉による説明よりも、実際の様子などを動画で見れると理解がしやすい。

(2) 居心地の良い学校について

ア 先生と生徒の距離感に関するもの【5／5グループ】

イ 生徒の主体性に関するもの【5／5グループ】

「校則を変えられる」「生徒の意見が取り入れられる」など

ウ その他、「いじめがない」「挨拶が活発」などの意見があがった。

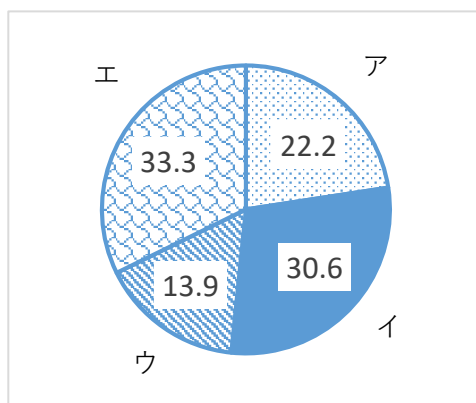
4 実施後アンケート結果

(1) 今回の2テーマについてのアンケート結果

「他者の意見のうち、自分の考えと同じであり、大切な考えだと認識できたものは何か。」

ア 学習の進め方

(積極的になれる授業・理解しやすい授業)



(数値は%)

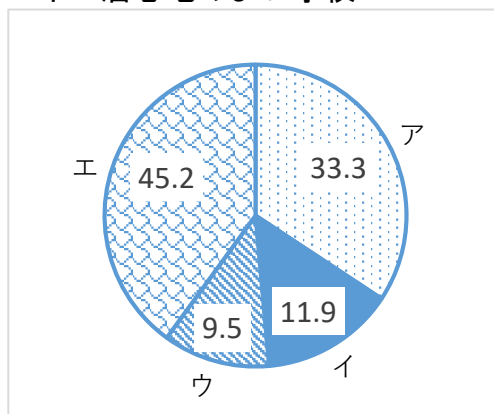
ア 協働的な学びに関するもの (例: グループの中で自らの意見・考えを言い合う授業)

イ 生徒主体の授業・伴走型の授業に関するもの (例: 先生による一方的な学習でなく、生徒自らが考える学習)

ウ 五感を使った授業に関するもの (例: 動画を見たり、実際に体験するなどする学習)

エ その他 (「タブレットの活用に関するもの」など)

イ 居心地のよい学校



(数値は%)

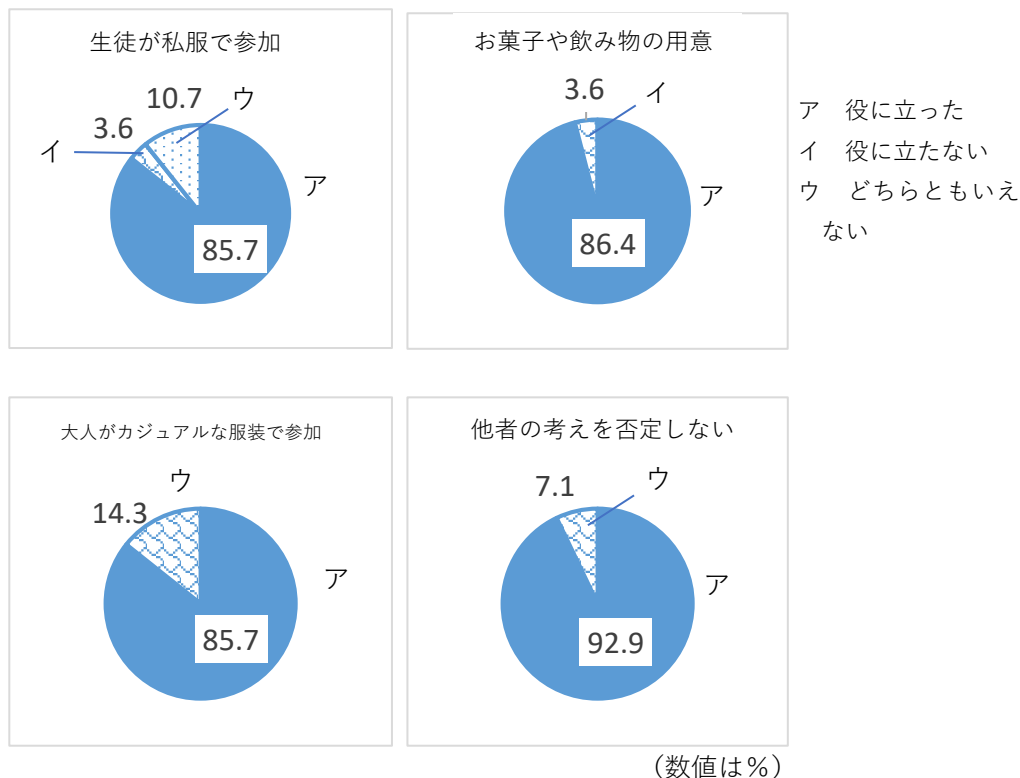
ア 先生と生徒の距離に関するもの (例: 先生と生徒が親しみやすい学校)

イ 悩み相談に関するもの (例: 気軽に相談できる場所)

ウ 生徒の主体性に関するもの (例: 自分の意見が出せる学校)

エ その他 (「学校の設備に関するもの」や「『居場所がない』ことをなくすことなど」)

(2) リラックスして意見交換をするのに役に立った点について



【開催概要】

1 趣旨

- (1) 次期足立区教育振興ビジョン改訂案に子どもの意見を反映させるため、意見を聴取する場として位置付ける。
- (2) 開かれた教育委員会の推進の一環として、教育長及び教育委員と生徒達が直に意見交換をする場として位置付ける

2 概要

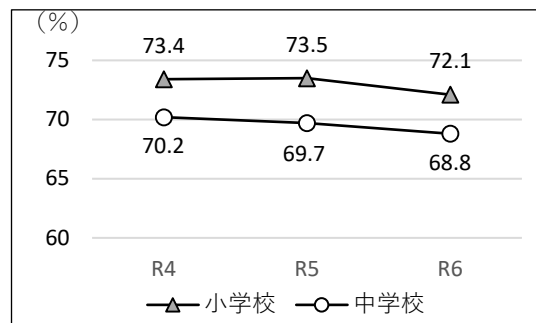
- (1) 日時：10月14日（月・祝）10：00～12：20
 - (2) 場所：こども支援センターげんき 5階 研修室3
 - (3) 参加者
 - ア 教育長、教育委員4人
 - イ 各区立中学校生徒会代表者34人（当日1人欠席）
 - (4) テーマ
 - ア 学習の進め方について
 - ① 積極的・主体的に学習に取り組むことができた授業
 - ② 内容が理解しやすい授業
 - イ 居心地のよい学校について
 - (5) 会議の進め方
 - ア 5グループ×7名で実施
 - イ 各テーマについて意見交換を行い、良いなと思った意見を付箋で書きだしてホワイトボードに貼付し、教育長・委員がまとめ。
 - (6) その他
 - ア 生徒の率直な意見を引き出すため、生徒、教育委員会側ともにカジュアルな服装で実施
 - イ 気楽な雰囲気づくりのため、お菓子と飲み物を用意
- ※ 気楽に、自由に意見を出し合うことを目的とし、他者の意見は否定しないことをルールとした。

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

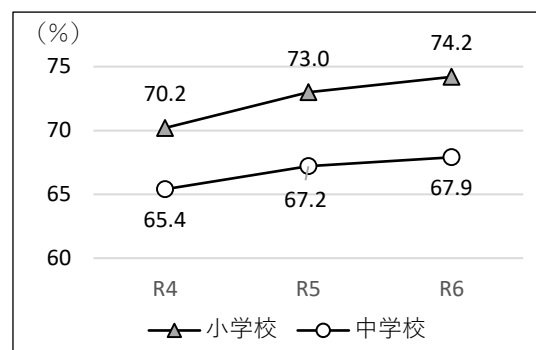
件名	令和6年度「足立区学力定着に関する総合調査」の調査結果（学習意識調査部分）について																																
所管部課名	教育指導部学力定着推進課																																
内容	令和6年4月12日（金）に実施した、令和6年度「足立区学力定着に関する総合調査」のうち、意識調査の結果について、以下のとおり報告する。 1 調査実施人数 (1) 小学校 単位：人 <table><tr><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>計</th></tr><tr><td>4,304</td><td>4,545</td><td>4,668</td><td>4,638</td><td>4,771</td><td>22,926</td></tr></table> (2) 中学校 単位：人 <table><tr><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>計</th></tr><tr><td>4,205</td><td>3,981</td><td>4,053</td><td>12,239</td></tr></table> 2 分析の視点 学力を支える非認知能力について、「学習指導要領において育成を目指す資質・能力」及び「学習の基盤となる資質・能力」に着目して『4項目（①学習に関する自己調整（※）、②粘り強さ、③言語能力、④情報活用能力）』の経年比較を行った。 ※ 自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たに学習につなげること。 3 調査結果 (1) 学びに向かう力 ア 授業で学習したことを振り返る活動を通じて、学習内容に対する興味や関心が深まったり、広がったりしたと思う 【学習に関する自己調整】 (%) <table><tr><th>学年</th><th>小学校</th><th>中学校</th></tr><tr><td>R4</td><td>69.8</td><td>65.5</td></tr><tr><td>R5</td><td>68.8</td><td>64.6</td></tr><tr><td>R6</td><td>66.9</td><td>63.9</td></tr></table>	2年	3年	4年	5年	6年	計	4,304	4,545	4,668	4,638	4,771	22,926	1年	2年	3年	計	4,205	3,981	4,053	12,239	学年	小学校	中学校	R4	69.8	65.5	R5	68.8	64.6	R6	66.9	63.9
2年	3年	4年	5年	6年	計																												
4,304	4,545	4,668	4,638	4,771	22,926																												
1年	2年	3年	計																														
4,205	3,981	4,053	12,239																														
学年	小学校	中学校																															
R4	69.8	65.5																															
R5	68.8	64.6																															
R6	66.9	63.9																															

イ わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している
【粘り強さ】

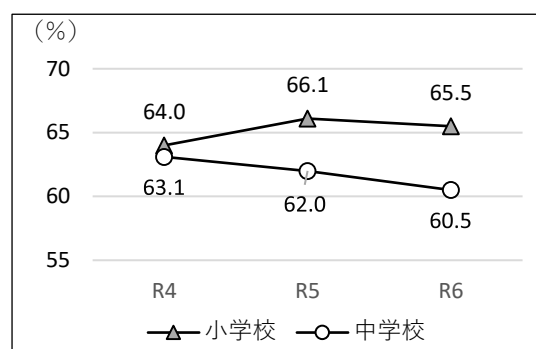


(2) 学習の基盤となる資質・能力

ア 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる
【言語能力】



イ 先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる
【情報活用能力】

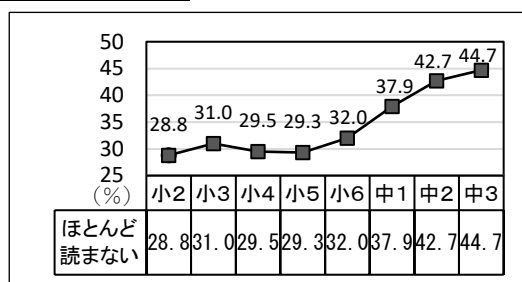


※ その他の主要項目の結果は、P 9～P 15

4 結果の分析と今後の対応

	結果の分析	今後の対応
学びに向かう力	「学習に関する自己調整」について低下傾向が見られ、特に小学生側の数値の減少が顕著である。児童・生徒が、学習導入時の「めあての設定」、学習終わりの「まとめ、振り返り」などを自分ごとと捉えて主体的に活動できるよう、授業の質を高めていく必要がある。	分析結果を各学校・指導主事・学力定着指導員等が共有するとともに、足立スタンダードに基づく問題解決を中心とした授業スタイルを徹底し、主体的・対話的で深い学びを推進することで、学びに向かう力や言語能力の育成を目指す。
学習の基盤となる資質・能力	「自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝えることができる」の項目の数値向上が顕著である。足立スタンダードの授業スタイルで、自らの考えを述べたり、他者の考えを聴く経験を積み重ねている成果の表れと考える。 「必要な情報を集め、整理する」の項目では、特に中学生側に減少傾向が見られる。また、進級するごとに、1か月に読書をしていない児童・生徒の割合(※)が増える傾向にある。	

※ 設問「1か月に何冊ぐらい本(マンガ、雑誌を除く)を読むか」で、ほとんど読まないと回答した割合。



5 周知方法・時期

- (1) 調査結果の詳細及び各学校の学力向上への主な取組等を、「調査結果報告書」(冊子)にとりまとめ、12月下旬に関係機関に配付予定(ただし学校別ページについては、学校選択の参考資料となることから、すでに区ホームページに掲載済)。
- (2) 報告書の「概要版」(リーフレット)を保護者に配付予定。

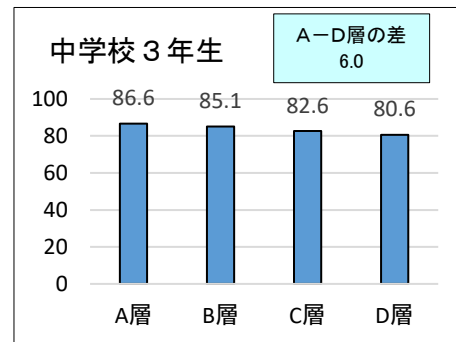
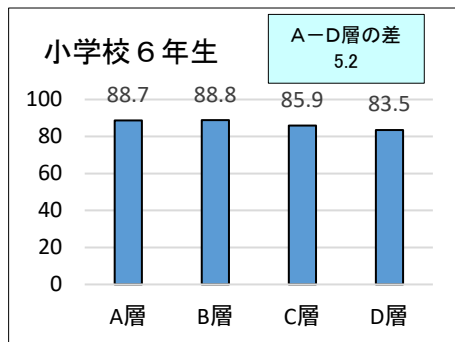
主要項目の学習意識調査結果（小中別・学力層別）

- ・ 学力層は、成績順にA層（上位層）、B層（中上位層）、C層（中下位層）、D層（下位層）の4層に区分したもの（各層概ね25%）
- ・ 各設問の数値は、肯定的な回答の割合を表す（単位：%）
- ・ カッコ内の数値は、昨年度からの増減を表す（単位：ポイント）

（１）学校への意識についての設問

ア 学校に行くのが楽しい

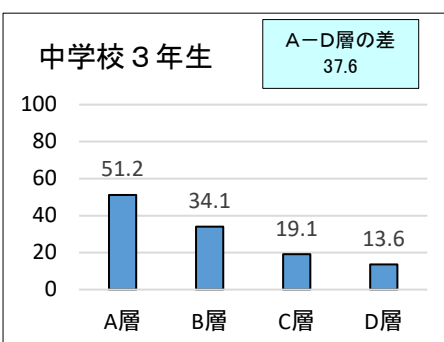
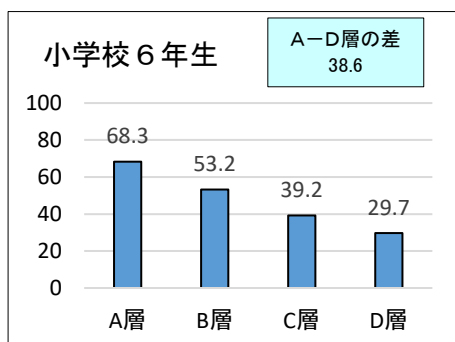
小学校全体	中学校全体
88.6（+0.2）	86.6（+0.4）



（２）勉強・教科に関する意識についての設問

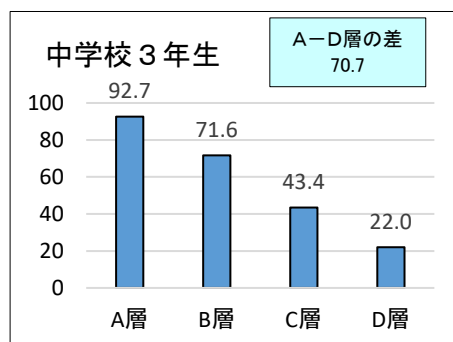
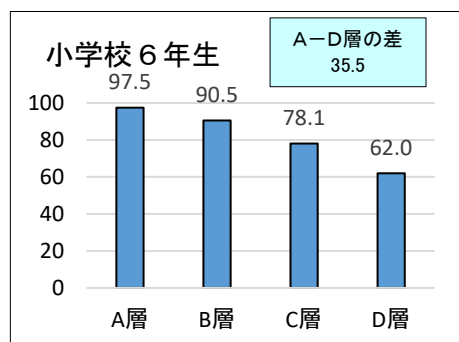
ア 勉強は好きだ

小学校全体	中学校全体
65.6（-0.5）	32.9（-1.2）



イ 学校の授業はどの程度分かるか

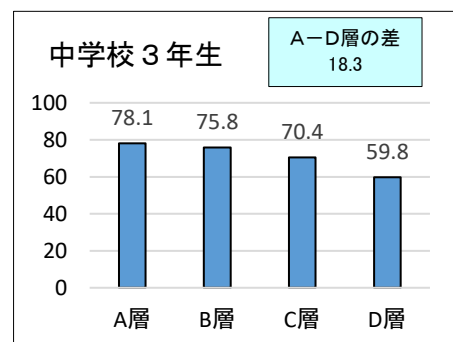
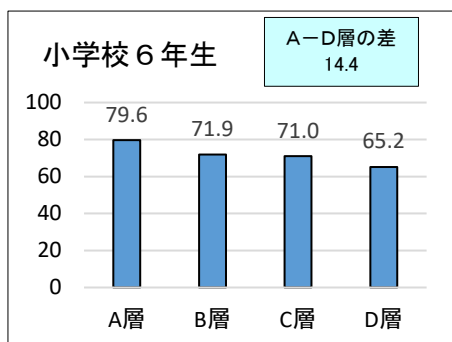
小学校全体	中学校全体
87.7 (−0.2)	64.5 (−2.0)



(3) 授業における学びの状況についての設問

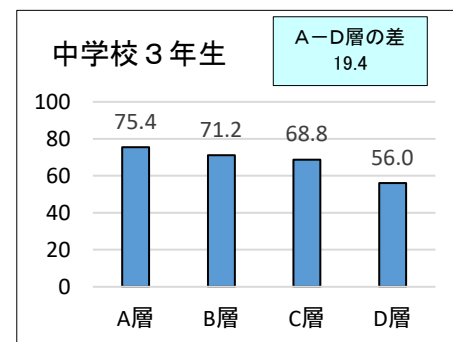
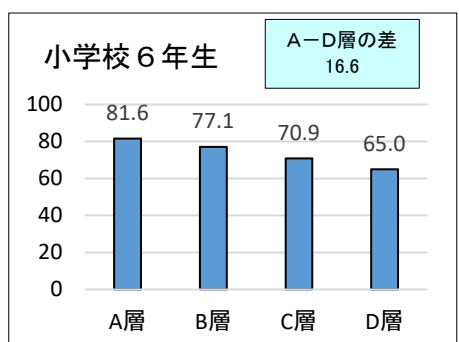
ア 授業のはじめに示された目標（めあて・ねらい）を理解し、見通しをもって学習に取り組んだと思う

小学校全体	中学校全体
74.8 (+0.2)	71.9 (−0.8)



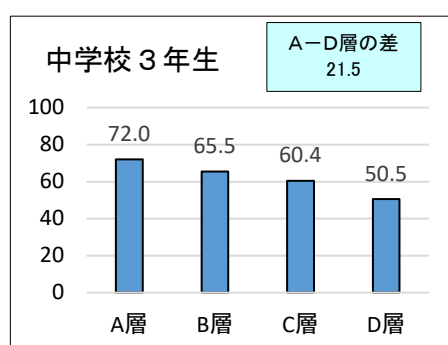
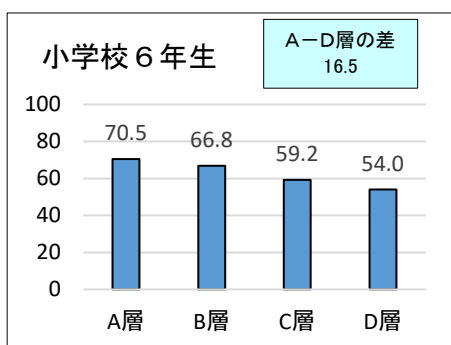
イ グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う

小学校全体	中学校全体
76.1 (+1.0)	67.9 (−0.4)



ウ 授業で学習したことを振り返る活動を通じて、学習内容に対する興味や関心が深まったり、広がったりしたと思う

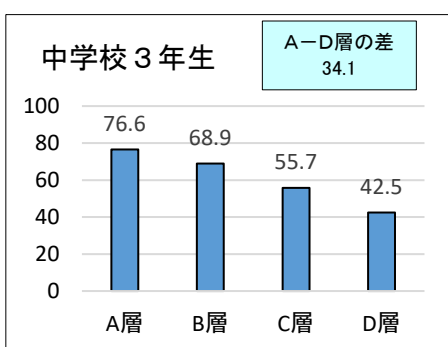
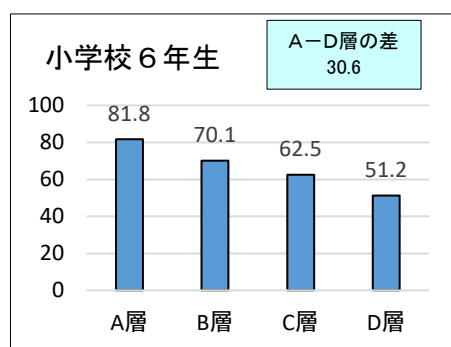
小学校全体	中学校全体
66.9 (−1.9)	63.9 (−0.7)



(4) 自ら学ぶ力についての設問

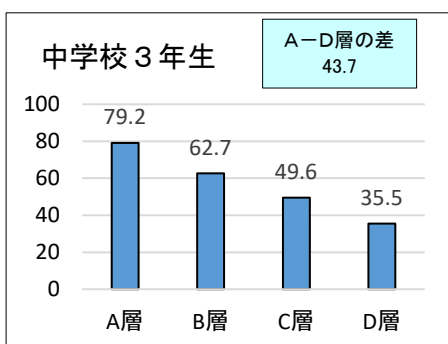
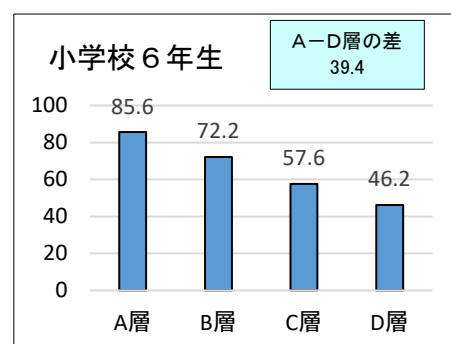
ア 先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる

小学校全体	中学校全体
65.5 (−0.6)	60.5 (−1.5)



イ これまで学習したことを使って新しい問題を工夫して解決している

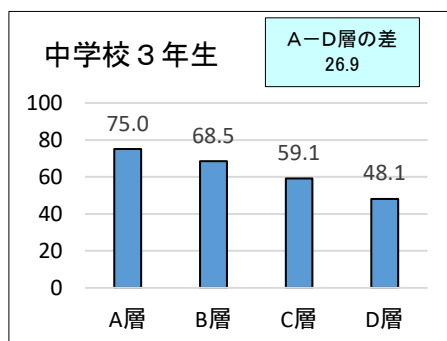
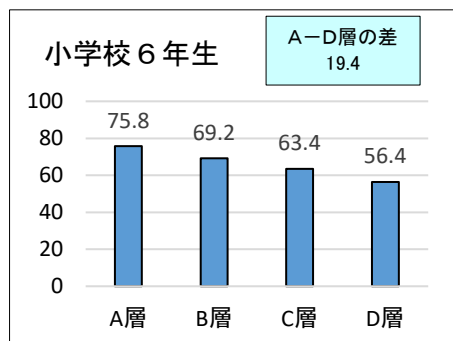
小学校全体	中学校全体
68.9 (+0.6)	59.5 (−0.6)



(5) 学びを律する力についての設問

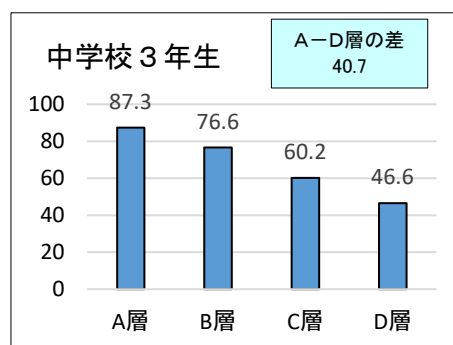
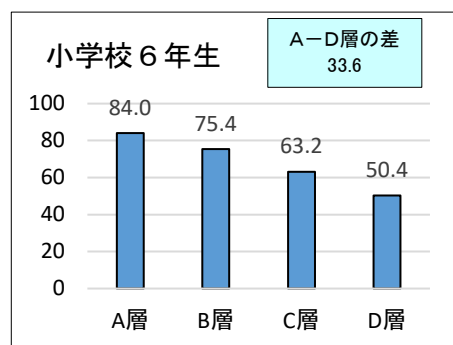
ア 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしている

小学校全体	中学校全体
71.1 (−0.8)	63.6 (−0.6)



イ わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している

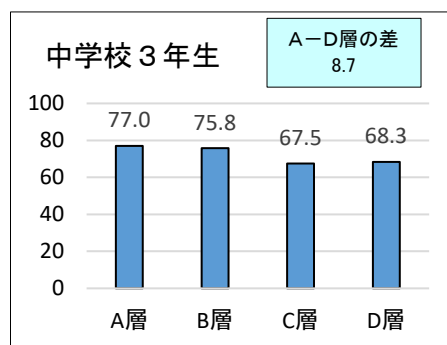
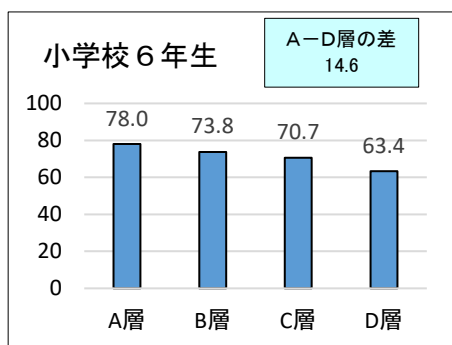
小学校全体	中学校全体
72.1 (−1.4)	68.8 (−0.9)



(6) 自己肯定感についての設問

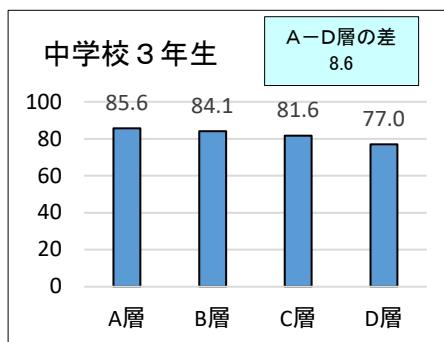
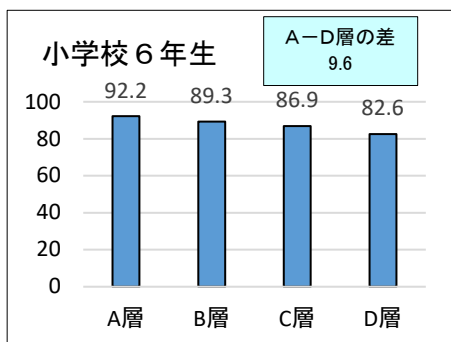
ア 自分にはよいところがあると思う

小学校全体	中学校全体
78.7 (+0.9)	72.4 (+2.6)



イ 努力をすれば、自分もたいいのことはできると思う

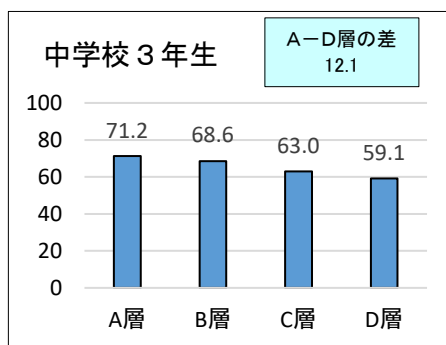
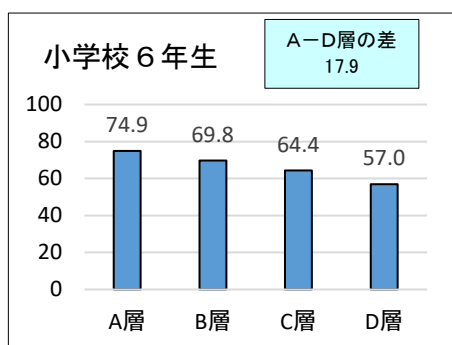
小学校全体	中学校全体
88.1 (+0.1)	83.6 (+1.2)



(7) 自制心・勤勉性についての設問

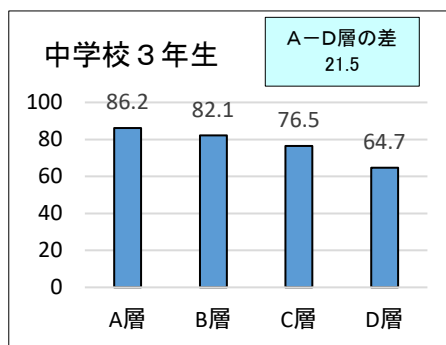
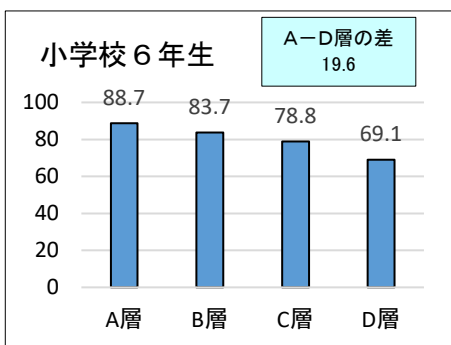
ア 難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる

小学校全体	中学校全体
79.3 (+0.2)	67.4 (±0)



イ 自分がやらなければならないことは、やりたくないときでも、きちんとやりぬくことができる

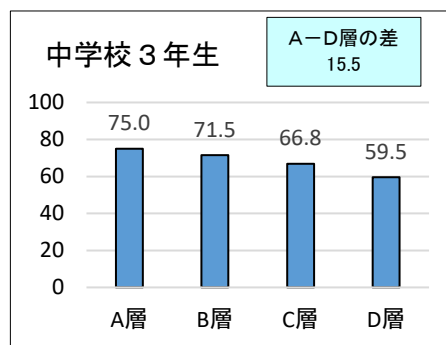
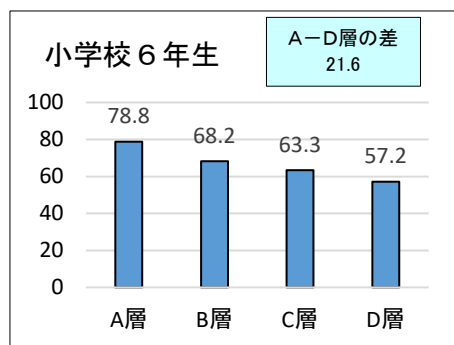
小学校全体	中学校全体
86.0 (+0.8)	78.5 (-0.6)



(8) 他者理解・協調性についての設問

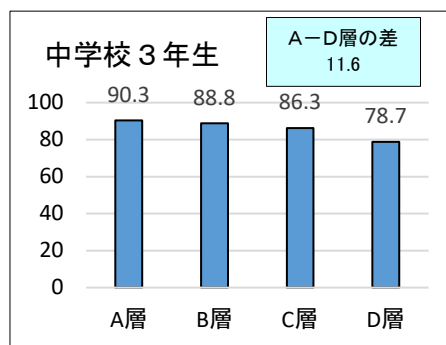
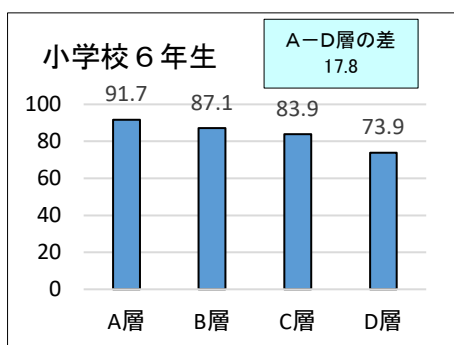
ア 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる

小学校全体	中学校全体
74.2 (+1.2)	67.9 (+0.7)



イ 自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている

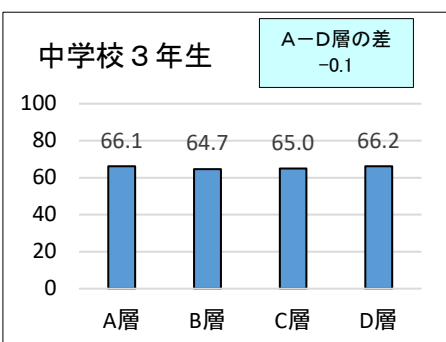
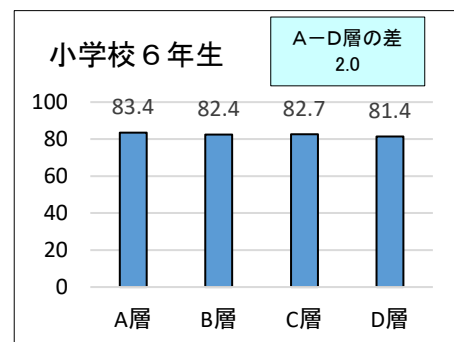
小学校全体	中学校全体
86.6 (+0.4)	86.3 (+0.2)



(9) キャリア形成意欲についての設問

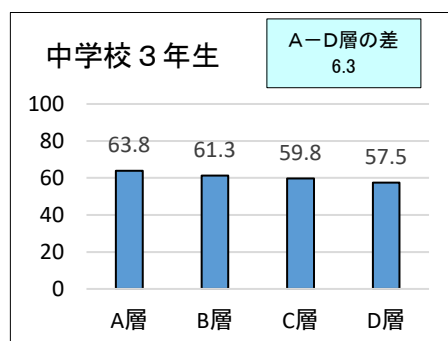
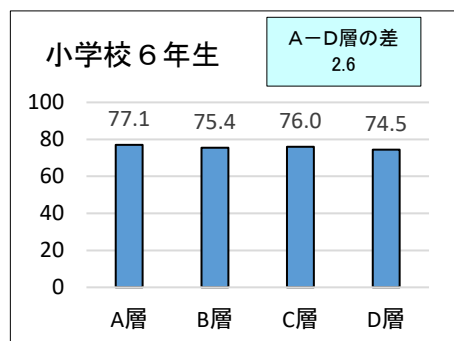
ア 将来の夢や目標を持っている

小学校全体	中学校全体
88.0 (+0.2)	71.1 (+0.4)



イ 自分の将来の夢や目標の実現に向かって努力したり、その方法を工夫・改善したりしている

小学校全体	中学校全体
78.3 (+0.8)	65.9 (+0.2)



文教委員会報告資料

令和6年11月14日

件名	令和7年度SSR（スモール・ステップ・ルーム）設置予定校について										
所管部課名	教育指導部教育指導課										
内容	1 SSRの今後の展開について SSR設置校の教員・生徒・保護者アンケートから、課題・宿題等の取組状況に一部課題はあるものの、登校状況、友人関係ともに利用生徒の3割以上が改善するなど、SSRの開設により、登校のハードルが下がり、不登校未然防止に効果が認められた。 令和7年度は6校増設し、令和9年度までの3年間で区内全中学校にSSRを整備することを目指す。 2 令和7年度SSR設置予定校について (1) 設置校選定の主な視点 - ア SSRに転用可能な部屋の有無 - イ エアコンと、学習に適した照明の有無 - ウ SSR利用者の動線（他者の視線を気にせず利用できること） - エ 不登校出現率 - オ 区内におけるSSR設置校の、配置のバランス (2) 令和7年度の新設予定校（6校） - ア 第五中学校 - イ 第十二中学校 - ウ 新田中学校 - エ 鹿浜菜の花中学校 - オ 東島根中学校 - カ 西新井中学校 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th><th>令和5年度 不登校出現率</th><th>不登校生徒の状況 (令和6年7月末時点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第五中学校</td><td>8.0%</td><td>「学業不振」「無気力」「学校への不安」「友人関係の不安」等、不登校の要因が多岐に渡っている。</td></tr> <tr> <td>第十二中学校</td><td>4.7%</td><td>「無気力」が約半数を占めているとともに、外部機関との関りをもつことができていない生徒が約6割存在する。</td></tr> </tbody> </table>		学校名	令和5年度 不登校出現率	不登校生徒の状況 (令和6年7月末時点)	第五中学校	8.0%	「学業不振」「無気力」「学校への不安」「友人関係の不安」等、不登校の要因が多岐に渡っている。	第十二中学校	4.7%	「無気力」が約半数を占めているとともに、外部機関との関りをもつことができていない生徒が約6割存在する。
学校名	令和5年度 不登校出現率	不登校生徒の状況 (令和6年7月末時点)									
第五中学校	8.0%	「学業不振」「無気力」「学校への不安」「友人関係の不安」等、不登校の要因が多岐に渡っている。									
第十二中学校	4.7%	「無気力」が約半数を占めているとともに、外部機関との関りをもつことができていない生徒が約6割存在する。									

新田中学校	3. 4 %	「無気力」「学校への不安」が約8割を占めている。起立性調節障害を抱えており、朝から登校することが難しい生徒が複数名存在する。
鹿浜菜の花中学校	11. 2 %	「無気力」「学校への不安」が9割以上を占めている。また、「あそび・非行」により登校できていない生徒が存在する。
東島根中学校	12. 1 %	「無気力」「学校への不安」が9割以上を占めている。また、「あそび・非行」により登校できていない生徒が存在する。
西新井中学校	7. 8 %	「無気力」「学校への不安」が7割を超えていることに加え、「家庭内の不和」により登校できない生徒が存在している。

※ 令和4年度東京都の不登校出現率は6. 85 %

(2) 令和7年度のSSR設置校の状況



(3) 令和7年度、不登校未然防止巡回教員の巡回校グループ

区西部グループ	区東部グループ
加賀中学校 (①)	第一中学校 (②)
新田中学校 (⑤)	六月中学校 (③)
鹿浜菜の花中学校 (⑥)	蒲原中学校 (④)
西新井中学校 (⑦)	東島根中学校 (⑨)
第五中学校 (⑧)	第十二中学校 (⑩)

3 今後のスケジュール

(1) 令和6年10月

ア 第4回SSR連絡会開催

(2) 令和6年11月

ア 令和7年度増設校の空間創造委託事業者選定プロポーザル開始

イ 副校長連絡会において、令和6年度SSR設置校における実践事例の発表報告

(3) 令和6年12月

ア 第5回SSR連絡会開催

(4) 令和7年1月

ア 補助金（人件費、物件費等）協議

(5) 令和7年2月

ア 第6回SSR連絡会開催

(6) 令和7年4月

ア 6校開設予定

4 予算について（SSR空間創造委託料）

(1) 債務負担行為設定

令和6年度中にプロポーザル方式により事業者を選定するため、債務負担行為設定に関する補正予算を第三回定例会（9/30 中間本会議）で議決済。

《令和7年度債務負担行為限度額》

税込 810,000*6校＝ 4,860,000 円

※ 予算には教室の空間デザイン料及びソファや観葉植物等の物品購入費用を含む。

【参考】

令和6年度

税込 700,000*3校＝ 2,100,000 円

※ 1校あたり11万円の値段の差は物価高騰によるもの

(2) 委託の内容

SSRを利活用する生徒が心を落ち着かせることができ、自分に合ったペースで学習・生活できるような空間を創造してもらうための予算である。予算にはSSRとして開設する教室の空間デザイン料及びソファや観葉植物等の物品購入費用が含まれている。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年11月14日

件名	スクールロイヤー法律相談の実施状況と周知について						
所管部課名	教育指導部教育指導課						
内容	1 スクールロイヤー相談の実施状況について						
	(1) 相談月別 (令和6年10月11日時点)						
	月別	小学校	中学校	事務局	相談数計	相談枠数	相談数/相談枠
	4	2	2	2	6	12	50%
	5	4	4		8	12	67%
	6	1	1	3	5	12	42%
	7	2		1	3	12	25%
	8		2		2	12	17%
	9				0	12	0%
	10	1	4	2	7	12	58%
合計	10	13	8	31	84	37%	
※ 開始当初は、従前から持ち越していた課題の相談が集中した。							
※ 相談には学校管理職の他、担任や生活指導担当も同席している。							
※ 「事務局」は、教育指導課ほか教育委員会事務局各課からの相談							
(2) 相談事由別 (令和6年10月11日時点)							
	保護者対応	児童・生徒対応	近隣対応	業者対応	教員への対応	その他	合計
小学校	5	3	1		1		10
中学校	8	1	2	1	1		13
事務局		1				7	8
合計	13	5	3	1	2	7	31
※ 「その他」の例：情報開示請求への対応、講師との契約に係る相談							
(3) 相談内容と弁護士の助言の例							
相談内容			弁護士の助言				
保護者からの、繰り返しのクレームへの対応 (7件)			基本は法令と国や都の指針、専門家の意見に則り、できる、できない、を明確にして対応する。それでも繰り返す場合、文書を出して、その後は「以前に回答した通り」とする方針も検討。				

	学校外での児童生徒・保護者間トラブルで、学校が仲裁を求められている（４件）	校外での出来事を校内で処理することは不適切。学校を話し合いの場としたり、話し合いに立ち会うべきではない。
	近隣からの「騒音だ」とする苦情（２件）	必要に応じて音量を測り、開かれた学校づくり協議会等とも連携して近隣の理解を求めていく。 一定の時点でクレーマーとしての対応に切り替えることも検討。
（４）相談後の状況 ア 相談には、今年度から教育指導課で採用したＳＷＡ（ソーシャルワークアドバイザー）も同席している。弁護士から専門医の意見を聴くよう助言され、ＳＷＡが校長に医師を紹介して面談に同行した事例、ＳＷＡが学校のカウンセラーに弁護士の助言内容を伝え教員の支援を依頼した事例等、学校課題の解決に向けた新たな支援の流れができています。 イ スクールロイヤー相談後、弁護士事務所で詳細な相談を行った事例が５件、保護者に交付する文書のチェックを依頼した事例が４件等、一過性の相談ではなく、課題解決まで継続して学校を支援する対応が図られている。 ウ 令和６年７月に、スクールロイヤー相談を担当する弁護士が小中学校校長会の自主研修に招かれ、実際の相談内容を踏まえた講演を行った。 ２ スクールロイヤー制度の周知について （１）校務支援システム（Ｃ４ｔｈ）文書連絡での周知 令和６年３月に上半期分、９月に下半期分の相談実施日を小中学校に周知した。また、毎月月末に、翌月の相談日を学校に周知し、利用を呼び掛けている。 （２）校務支援システム（Ｃ４ｔｈ）の掲示板への掲載 全ての教員が閲覧可能な、校務支援システムの掲示板に制度の案内を掲載し、周知を図った。 （３）全教員配付用相談カードへの記載 教員が心の悩みを抱え込まず、関係機関に相談できるよう、学校支援課で作成している相談カード「ひとりで悩まないで・・・」にスクールロイヤー制度を追記し、令和６年６月に全ての教員に配布した。 ３ 文部科学省委託事業 「行政による学校問題解決の為の支援体制の構築に向けたモデル事業」について		

(1) 制度の概要

指導主事に加え、学校長OB、弁護士等の専門家チームを組織し、保護者対応など学校の抱える課題解決を支援する取組である。

当区は6年度からスクールロイヤーと、SWA（ソーシャルワークアドバイザー）を配したことで文科省の事業委託を受け、弁護士費用等の一部が助成される見込み。

(2) 事業委託費の内訳

補助対象の経費	歳出予算額	歳入予算額	補助率
スクールロイヤー弁護士費用	1,584,000	1,584,000	100%
学校長OB1名の雇用経費	2,594,000	1,268,000	49%
旅費、講師謝礼	30,000	30,000	100%
合 計	4,208,000	2,882,000	68%

※ 学校長OBの主な職務内容は、以下のとおり。

- ① 学校経営全般に対する助言
- ② 学校を訪問して校長教員に対して保護者対応等の助言
- ③ 課題のある学級・生徒の行動観察
- ④ いじめ等の電話相談対応

※ ソーシャルワーク・アドバイザーの雇用経費は、スクールソーシャルワーカー活用事業補助金で50%補助される。

4 今後の方針

(1) 相談した学校長や弁護士の意見を聴き、また、他の自治体との情報交換を継続し、より利用しやすい制度設計を進めていく。

(2) 相談事例を集約し、保護者対応や児童・生徒対応で肝要な事項を小中学校に周知し、課題の早期解決、未然防止を図っていく。

(参考) 相談の実施日、時間

毎月3回、木曜日に実施（区長部局の法律相談と同日に実施）。

時間は原則16時10分から18時10分までだが、学校、弁護士のスケジュールに応じて柔軟に対応している。

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

件名	【追加】「令和6年度水泳指導実施状況調査」報告について										
所管部課名	教育指導部教育指導課										
内 容	1 調査対象期間（水泳指導実施期間） 令和6年5月1日から同年9月30日まで 2 対 象 区立全小・中学校（回収率 100%） 3 水泳指導の現状 近年、連日の猛暑により熱中症アラートが発令され、各学校に設置している暑さ指数計も基準値を上回る日が非常に多くなってきている。その結果、各学校が定めた指導時数を確実に行うことができず、水泳指導の実施に影響を及ぼしている。 そこで、区内小中学校における水泳指導の実施状況について調査を実施した。 4 調査結果 小学校は1学年当たりの平均実施時数9.7単位時間に対して、平均中止時数は3.4単位時間であった。中止の理由として「高温」と「雨天」とで、全体の約8割を占めた。 一方で、中学校は水泳指導と並行して他領域の学習を進めたり、2クラス合同の授業編成にしたりするなどの工夫を行った結果、中止時数が平均0.8単位時間と小学校と比較して少なかった。 ※ 小学校の1単位時間は45分、中学校の1単位時間は50分 5 結果概要 (1) 小学校 ア 教育課程内における水泳指導 (ア) 実施時数（平均）：9.7時間 (イ) 中止時数（平均）：3.4時間 (ウ) 中止の理由内訳 <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th><th>割合 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高温</td><td>40.9</td></tr> <tr> <td>雨天</td><td>37.6</td></tr> <tr> <td>時数調整</td><td>15.8</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>5.7</td></tr> </tbody> </table> 中止の理由内訳 (小学校・教育課程内) ※ その他の理由 ① 気温水温が低かったため ② 体力テスト実施日と重なったため ③ 鋸南自然教室と重なったため ④ 避難訓練のため ⑤ 他教科の時数確保のため ⑥ 学校公開のため ⑦ 水質不良のため	理由	割合 (%)	高温	40.9	雨天	37.6	時数調整	15.8	その他	5.7
理由	割合 (%)										
高温	40.9										
雨天	37.6										
時数調整	15.8										
その他	5.7										

イ 教育課程外（夏季休業日）における水泳指導

（ア）実施校：55校／67校中

（イ）実施回数（平均）：3.0回

（ウ）中止回数（平均）：2.0回

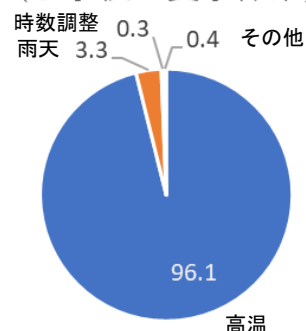
（エ）中止の理由内訳

理由	割合（％）
高温	96.1
雨天	3.3
時数調整	0.3
その他	0.4

※ その他の理由

① 台風接近のため

中止の理由内訳
（小学校・夏季休業）



（２）中学校

ア 教育課程内における水泳指導

（ア）実施時数（平均）：8.4時間

（イ）中止時数（平均）：0.8時間

（ウ）中止の理由内訳

理由	割合（％）
高温	13.2
雨天	53.3
時数調整	0.0
その他	33.5

※ その他の理由

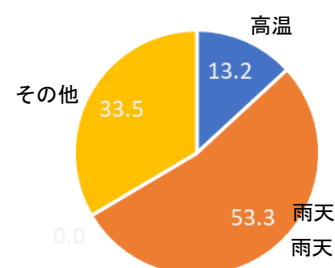
① 濾過器の故障のため

② 水質検査にて大腸菌が検出されたため

③ 雷鳴のため

④ プールの故障と工事の影響のため

中止の理由内訳
（中学校・教育課程内）



イ 教育課程外（夏季休業日）における水泳指導

（ア）実施校：15校／35校中

（イ）実施回数（平均）：2.6回

（ウ）中止回数（平均）：0.1回未満

6 今後の方針

（１）令和6年11月の定例校長会において、本アンケートの結果概要を公表する。

（２）本アンケートの結果、各校が水泳指導開始時期及び終了時期を工夫しながら、水泳指導回数の確保をしていることが分かった。また、その日の天候等に応じて、時間割を変更するなどの対応策を講じていることも分かった。これらの好事例を校長会等で周知していく。

（３）プールの水温管理やプールサイドの安全配慮等について、全小中学校に対して指導・助言を行っていく。

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

件名	登校サポーターの従事時間変更について
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課
内容	登校サポーターの「別室登校支援」における1校あたりの登校サポーター従事時間の上限を、12月1日から以下のとおり変更する。 1 上限時間の変更 従来) 週3回かつ1回3時間(最大9時間) 変更後) 週15時間 ※ これにより、一日6時間の開室や毎日3時間の開室など、各学校の事情に応じて登校サポーターを柔軟に配置してもらい、不登校の未然防止効果をあげていく。 2 変更理由 (1) 学校からの要望 学校からは毎日(週5日間)別室を開室したいとの要望が寄せられていた。 (2) 登校サポーターからの意見 7月24日実施の登校サポーター連絡会で、上限の変更についてサポーターからの意見があった。 (3) 上限変更による予算措置 上限変更により増となる登校サポーターの報酬総額について、約500万円の増と見込み、財政課及び人事課と協議し、現行予算内で対応する(補正予算編成なし)。 3 今後の方針 12月1日からの適用に向けて、以下のとおり進める。 (1) 「足立区登校サポーター派遣事業実施要綱」の改正 改正案について、総務課法務係に審査依頼中 (2) マニュアル改正 「登校サポーター手引き(登校サポーター用)」及び「足立区登校サポーター事業マニュアル(学校用)」について、改正作業中 (3) 登校サポーターへの周知 11月中に「登校サポーター通信」にて周知予定 (4) 各学校への周知 校長会を通じて周知する。

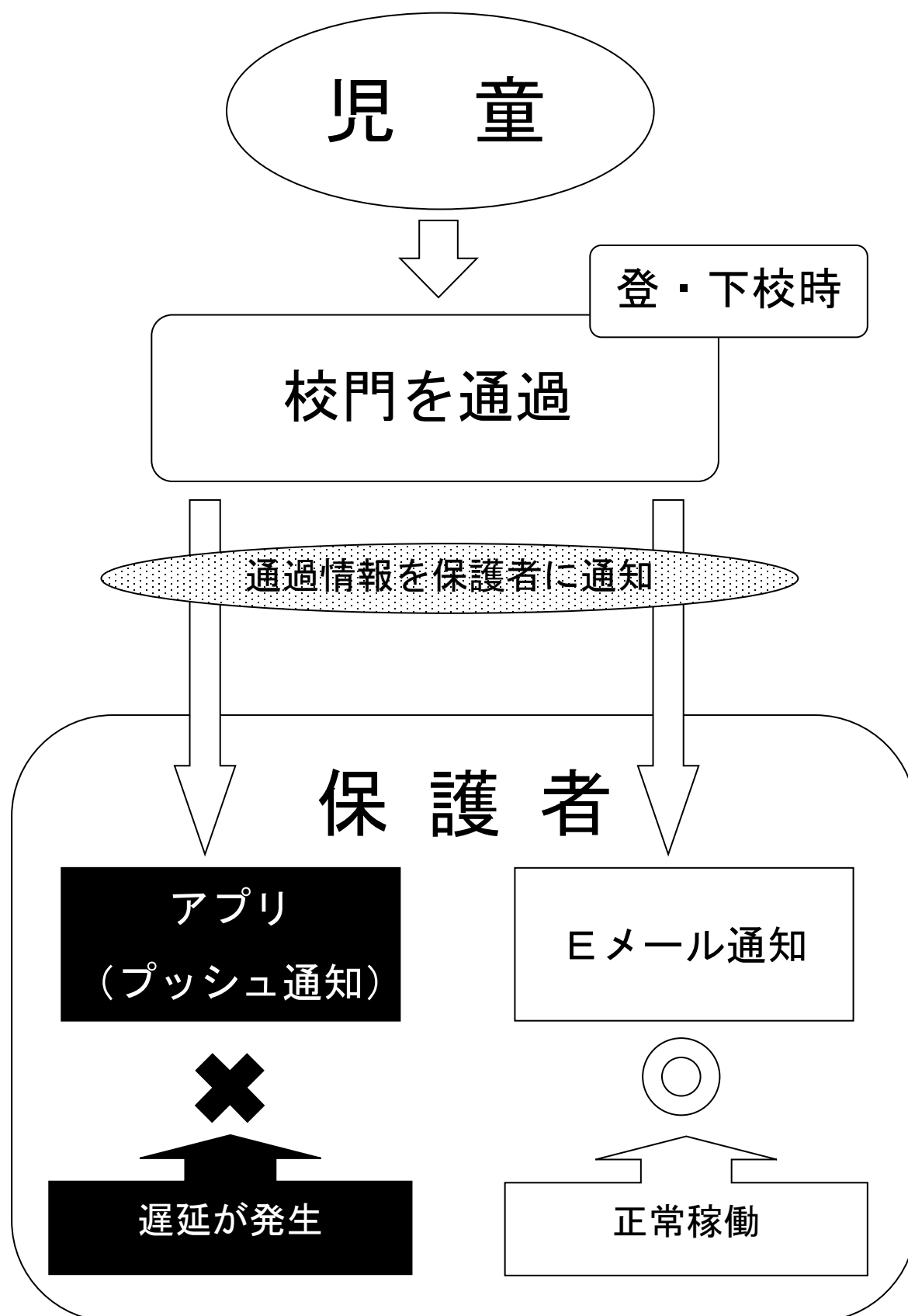
文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年11月14日

件 名	登下校通知メールシステム「ミマモルメ」のシステム障害について
所管部課名	学校運営部学務課
内 容	区内全小学校（67校）にて導入している登下校通知メールシステム「ミマモルメ」に発生したシステム障害について、これを報告する。 1 事業者 (1) アイテック阪急阪神株式会社（代理店） (2) 株式会社ミマモルメ（サービス提供者） 2 障害の概要 (1) 発生日時 令和6年10月1日（火）の早朝から10月2日（水）の15時30分頃にかけて発生。 (2) 障害の事象 登下校通知メールシステム「ミマモルメ」のアプリにおいて「登下校門の通過通知」及び「通過履歴の情報反映」に、最大5時間程度の遅延が発生した。 (3) 障害の影響範囲 「ミマモルメ」アプリにおけるプッシュ通知に遅延が発生した。 ※ メールアドレスへの通知配信には遅延は発生していない。 (4) 障害発生の原因 データベースサーバの更新作業後、急激に負荷が上昇したため。負荷上昇の理由は「学校管理者サイトの下書きメール検索機能」（足立区は使用していない）にあることが判明。 ただし、当該機能がどのように障害を生じさせたか、については現在も分析中である。 (5) 現状 データベースサーバを更新作業前の状況に戻したことで、システムは安定稼働している。 3 今後の再発防止策について 再発防止のため、事業者に対し以下の対応を求めた。今後は事業者と連携し、安全安心に資するサービスを提供していく。 (1) 障害を発生させた「学校管理者サイトの下書きメール検索機能」がどのように障害を生じさせたか、について検証実施する（株式会社ミマモルメ）。

	(2) システム更新時や機器更新時における事前検証項目の見直しを行う(株式会社ミマホルメ)。 (3) 保護者や学校への連絡が先行し、区への連絡が遅れたことから、区、代理店、サービス提供者の三者間での障害発生時の連絡体制を再構築(アイテック阪急阪神株式会社)する。
	4 障害発生から復旧までの経緯 10月1日(火) 8時00分 登校時間帯にデータベースサーバの負荷が急激に上昇、通知等の機能に1時間程度の遅延が発生(足立区は都民の日のため影響なし)。 8時20分 (株)ミマホルメのホームページに障害発生について情報を掲載。 18時30分 ミマホルメ利用中の全ての保護者に対し、Eメールにて障害に係る情報の報告を開始。 10月2日(水) 8時00分 登校時間帯にデータベースサーバの負荷が急激に上昇、通知等の機能に最大5時間程度の遅延が発生 11時25分 ミマホルメを導入している国内全ての学校宛に対し、FAXにて障害に係る情報の報告を開始。 13時00分 ミマホルメ利用中の全ての保護者に対し、Eメールにて障害に係る情報の報告を開始。 15時30分 遅延解消を確認。 10月3日(木) 8時00分 登校時間帯での安定稼働を確認。 11時50分 ミマホルメを導入している国内全ての学校宛に対し、FAXにて復旧報告を開始。 12時20分 ミマホルメ利用中の全ての保護者に対し、Eメールにて復旧報告を開始。

登下校通知メールシステム「ミマモルメ」サービスの流れと障害について



文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年11月14日

件 名	通学路安全マップの完成及び配付について
所管部課名	学校運営部学務課
内 容	これまで、各校が独自に作成していた通学路安全マップの様式標準化版が完成したため、報告する。 1 作成経緯 学校によって情報量や見やすさに差があったため、様式を統一化した。また、電子データ化することにより、児童と保護者が通学路における危険情報を等しく、かつ容易に確認できるようにした。 2 概要 (1) 表示内容 通学路に加え、各学校から集約した交通・犯罪・災害の各危険箇所情報を、地図データ（PDFファイル）上にアイコンで表示。 (2) 操作 地図上のアイコンをクリックもしくはタップすることにより、さらに詳しい情報をコメントで表示させる。 3 完成イメージ P 3 0 参照 4 配付 校長会を通して依頼した上で、各小学校へマップデータを送付し以下の方法等により保護者へ配付を行う。なお、原則として紙での配付は行わず、スマートフォン等で確認できるようにする。 (1) 新入学予定者 通学の練習や危険箇所の把握に活用できるよう、入学前に「C 4 t h ホーム&スクール」（保護者への情報配信システム）を通じて配信する。 (2) 在校生 学校から「C 4 t h ホーム&スクール」を通じて配信する。 (3) その他 「C 4 t h ホーム&スクール」を使用していない保護者に対しては、各学校と検討の上、適した方法にて配付を行う。

	5 今後・課題 (1) マップデータの更新 各学校へ危険箇所情報の更新を依頼し、学務課が情報を集約した上で、一括してマップデータの更新を行う（更新時期は毎年度当初を想定）。 (2) 課題 マップの全面的な公開の可否については、通学路や防犯に係る危険箇所情報を公開すると犯罪の誘因となる懸念があるため、警察や校長会等へ意見聴取した上で、慎重に判断する。
--	---

マップ全体 イメージ

- ・通学路は緑色の線で表示。
- ・危険箇所は「交通」「犯罪」「災害」の3種類を色分けで表示。



スマートフォン で表示したイメージ

- ・閲覧したい箇所を拡大表示することが可能。
- ・危険箇所のアイコンをタップすると、画面下部に内容が表示される。



文教委員会報告資料

令和6年11月14日

件 名	令和6年度貧血・小児生活習慣病予防健診の実施について
所管部課名	学校運営部学務課
内 容	令和6年度の貧血・小児生活習慣病予防健診の実施について、次のとおり報告する。 1 健診の目的 足立区では、生活習慣病リスクのひとつである肥満傾向の割合が全国や東京都の平均値よりも高いため、健診により、早期から自らの健康に関心を持ち、正しい生活習慣を身につけることを目的としている。 2 健診内容 計測（肥満度）、血圧測定、採血（総コレステロール、HDL コレステロール、LDL コレステロール、ヘモグロビン A1c） 3 対象者 （1）中学生 ア 中学2年生 イ 中学3年生（前年度の健診で要医学的管理、要経過観察、ヘモグロビン A1c5.6%以上と判定された者） （2）小学生 ア 小学5年生（令和6年度から新たに全校で実施） ※ 特に、定期健康診断の身体測定で肥満傾向又は痩せの計測結果であった者については、養護教諭から受診勧奨を行う。 イ 小学6年生（令和5年度のモデル実施5校の健診で、要医学的管理、要経過観察、ヘモグロビン A1c5.6%以上と判定された者） 4 健診日時・場所 （1）中学生 9月下旬から11月初旬まで 各学校で実施 ※ 追加健診（欠席者対象） 令和6年11月16日（土）午後 学びピア21 （2）小学生 令和7年1月11日（土）午前 足立区勤労福祉会館 令和7年1月15日（水）午後 梅田地域学習センター 令和7年1月25日（土）午前・午後 梅田地域学習センター

5 生活習慣病予防の取組

児童・生徒への指導のほか、家庭でも取り組めるよう保護者に対する啓発を実施する。

(1) 事前指導・事後指導（中学生対象）

健診対象の生徒に養護教諭が事前指導を行う。また、健診で所見があった生徒に対して事後指導を行うとともに、要医学的管理の所見があった場合は、医療機関への受診勧奨を行っている。

(2) 出前教室（小学生対象）

令和6年度からは新たに、希望する小学校へ区保健師と栄養士が学校を訪問し、4年生から6年生を対象に、からだによい生活習慣のきっかけづくりの授業を行っている。

(3) 講演会・個別相談会（P 3 3 参照）

健診対象の児童・生徒及びその保護者等に対し、専門医による講演会及び医師・栄養士による個別相談を実施する。

令和6年12月21日（土）午後1時から 足立区庁舎ホール

高血圧

メタボ

貧血

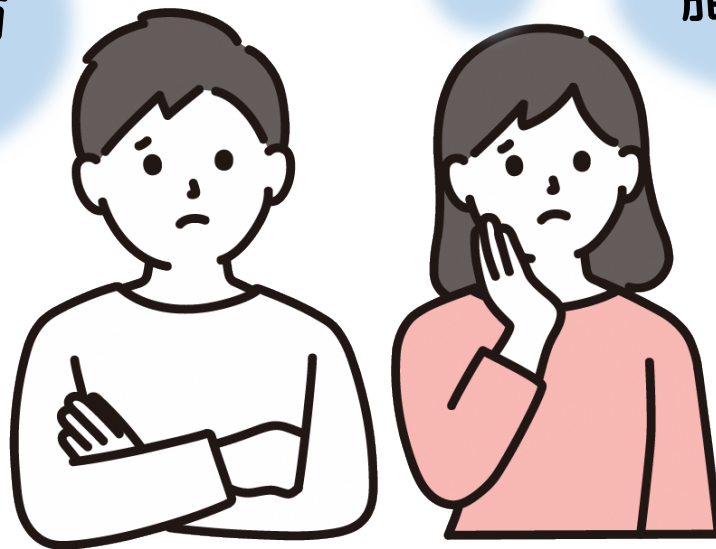
子どもだってあるんです



小児生活習慣病
予防講演会

糖尿病

脂質異常症



参加無料
要申込

子どものうちに、良い生活習慣を身につけることで、将来の健康リスクを減らすことができます。
特に、今回の健診で所見のあった方は、是非ご参加ください。

日時：令和6年12月21日（土）

13:00～14:20（受付12:30～）

場所：足立区役所 庁舎ホール（足立区中央本町1-17-1）

講師：東京女子医科大学附属足立医療センター
小児科准教授 松岡 尚史先生

申込：申し込みフォームより

申込期限：令和6年12月12日（木）



<アクセス>

梅島駅より徒歩12分



主催：足立区医師会、足立区教育委員会

問い合わせ：学務課学校保健係

電話：3880-5971

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年11月14日

件 名	おいしい給食事業のPRについて
所管部課名	学校運営部学務課
内 容	おいしい給食事業について、民間企業と協働して区内及び区外にPRを行う。 1 おいしい給食レシピ本の発行 (1) 経緯 平成23年に出版されたレシピ本「東京・足立区の給食室」が絶版となっており、購入したい等の問い合わせがある度に担当としては残念な思いをしていた。この度、栄養士達のレシピ本を再びという声にも応え出版会社に相談したところ、株式会社主婦の友社からレシピ本が発行されることになった。 (2) 内容 学校給食を家庭用にアレンジしたレシピ。学務課栄養士及び学校栄養士はレシピ作成にあたりアドバイスをを行った。 (3) 事業者 株式会社主婦の友社 (住所：品川区上大崎三丁目1番1号) (4) 発売日 (予定) 令和6年12月13日 (金) 2 ミールキットの開発発売 (1) 経緯 学校給食のメニューを気軽に家庭でも体験してもらいたいと区内業者に相談したところ、ミールキットを開発し発売することになった。 (2) 内容 足立区で人気のある学校給食メニューを参考にしたミールキット。メニュー選定にあたり学務課栄養士がアドバイスをを行った。 (3) 事業者 楽彩株式会社 (住所：足立区六町四丁目12番12号) (4) 発売日 (予定) 令和6年11月下旬

3 今後について

シティプロモーション課とともに民間企業とも協働し、レシピ本やミールキットのPR及びおいしい給食担当推進事業のPRを区内外へ行っていく。

11月22日（金） プレスリリース

11月下旬 ミールキット発売予定

12月13日（金） レシピ本発行予定

12月14日（土） ミールキット、レシピ本PRイベント実施予定

～15日（日） （会場：西新井アリオ予定）

文教委員会報告資料

令和6年11月14日

件名	校外施設指定管理者評価結果について																				
所管部課名	学校運営部学務課																				
内 容	鋸南自然の家及び日光林間学園の令和5年度業務について、足立区立校外施設指定管理者評価委員会（以下「評価委員会」という。）による評価を行ったので、報告する。																				
	1 主な業務内容																				
	(1) 鋸南自然の家 区立小学校5年生の自然教室及び一般利用宿泊施設																				
	(2) 日光林間学園 区立小学校6年生の自然教室及び一般利用宿泊施設																				
	2 指定管理者・指定管理期間																				
	<table><tr><th>施設名</th><th>指定管理者</th><th>指定管理期間</th></tr><tr><td>鋸南自然の家</td><td>株式会社フォレスト (代表取締役 石田 浩二)</td><td>令和元年度～令和6年度</td></tr><tr><td>日光林間学園</td><td>東京ケータリング株式会社 (代表取締役 鈴木 隆文)</td><td>令和5年度～令和9年度</td></tr></table>			施設名	指定管理者	指定管理期間	鋸南自然の家	株式会社フォレスト (代表取締役 石田 浩二)	令和元年度～令和6年度	日光林間学園	東京ケータリング株式会社 (代表取締役 鈴木 隆文)	令和5年度～令和9年度									
	施設名	指定管理者	指定管理期間																		
	鋸南自然の家	株式会社フォレスト (代表取締役 石田 浩二)	令和元年度～令和6年度																		
	日光林間学園	東京ケータリング株式会社 (代表取締役 鈴木 隆文)	令和5年度～令和9年度																		
	3 指定管理料（令和5年度）																				
(1) 鋸南自然の家																					
<table><tr><td>① 非精算</td><td>93,044,264 円（税込）</td></tr><tr><td>② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)</td><td>21,357,509 円（税込）</td></tr><tr><td>合計（①＋②）</td><td>114,401,773 円（税込）</td></tr></table>			① 非精算	93,044,264 円（税込）	② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)	21,357,509 円（税込）	合計（①＋②）	114,401,773 円（税込）													
① 非精算	93,044,264 円（税込）																				
② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)	21,357,509 円（税込）																				
合計（①＋②）	114,401,773 円（税込）																				
(2) 日光林間学園																					
<table><tr><td>① 非精算</td><td>66,122,591 円（税込）</td></tr><tr><td>② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)</td><td>15,836,409 円（税込）</td></tr><tr><td>合計（①＋②）</td><td>81,959,000 円（税込）</td></tr></table>			① 非精算	66,122,591 円（税込）	② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)	15,836,409 円（税込）	合計（①＋②）	81,959,000 円（税込）													
① 非精算	66,122,591 円（税込）																				
② 要精算(修繕費・光熱水費・補助員賄費)	15,836,409 円（税込）																				
合計（①＋②）	81,959,000 円（税込）																				
4 評価対象期間																					
令和5年4月1日～令和6年3月31日																					
5 評価委員会開催日																					
令和6年8月6日																					
6 評価委員会委員構成（計6名）																					
<table><tr><th>種別</th><th>氏名</th><th>役職等</th></tr><tr><td rowspan="2">学識経験者 (有識者含む)</td><td>高井 正 【委員長】</td><td>早稲田大学非常勤講師</td></tr><tr><td>本田 一也</td><td>中小企業診断士</td></tr><tr><td rowspan="2">区 民</td><td>大林 英夫</td><td>青少年対策弘道地区委員会会長</td></tr><tr><td>村上 和生</td><td>千寿常東小学校PTA会長</td></tr><tr><td>学校長</td><td>澁谷 あゆみ</td><td>舎人第一小学校校長</td></tr><tr><td>区職員</td><td>飯塚 尚美</td><td>産業経済部産業振興課長</td></tr></table>			種別	氏名	役職等	学識経験者 (有識者含む)	高井 正 【委員長】	早稲田大学非常勤講師	本田 一也	中小企業診断士	区 民	大林 英夫	青少年対策弘道地区委員会会長	村上 和生	千寿常東小学校PTA会長	学校長	澁谷 あゆみ	舎人第一小学校校長	区職員	飯塚 尚美	産業経済部産業振興課長
種別	氏名	役職等																			
学識経験者 (有識者含む)	高井 正 【委員長】	早稲田大学非常勤講師																			
	本田 一也	中小企業診断士																			
区 民	大林 英夫	青少年対策弘道地区委員会会長																			
	村上 和生	千寿常東小学校PTA会長																			
学校長	澁谷 あゆみ	舎人第一小学校校長																			
区職員	飯塚 尚美	産業経済部産業振興課長																			

7 評価方法

評価委員会への提出書類の確認及び所管課の実態調査により実施した。

＜主な提出資料＞

1	業務評価シート	8	個人情報取り扱いマニュアル
2	労働条件審査主要チェックシート	9	会社全体の決算報告書
3	前回の評価結果の反映状況	10	鍵貸出管理簿
4	令和5年度実施報告書	11	金銭出納簿
5	消防計画	12	備品修繕記録簿
6	施設巡回簿	13	運営事業計画書
7	災害用備蓄一覧	14	お客様アンケート集計表

8 評価結果

(1) 鋸南自然の家 41点／50点 得点率82% 総合評価 A⁻ (前回 B⁺)

(2) 日光林間学園 30点／50点 得点率60% 総合評価 B (前回 B)

(評価項目等は、P38～47「業務評価シート」参照)

9 評価委員会での主な意見と対応等

(1) 鋸南自然の家

ア 地元の方と連携した自主企画の実施や地産地消の姿勢は評価できる。

イベント企画・周知の効果もあり利用者増につながった。今後も継続することで地元との良好な関係を深めてほしい。

イ 団体の直前キャンセルや大幅な人数変更は食材ロスにもつながるため、キャンセル規定はより厳しくした方がよい。

(対応策) 現在、2日前まで受付可能としているキャンセル規定について区で見直しを検討していく。

(2) 日光林間学園

ア 指定管理業務初年度であり、自然教室の運営、一般利用者への対応に行き届かない面があったが、下半期に向けて改善がなされており、企業努力がうかがえる。

イ 計画通りの利用状況になっていない。利用者見込みの分析を行うとともにイベントの企画や施設の周知方法の工夫など利用者増につながる対策を検討してほしい。

(対応策) 前年の利用実績を元に利用者の多い時期に開館日を設定する等ニーズに合わせた利用見込みを立てていく。地元と連携したイベントの企画や施設の魅力を伝える広報を検討する。

10 今後の方針

文教委員会に報告後、11月下旬に区HPにて公表する。

足立区立校外施設指定管理者評価委員会
業務評価シート

【評価対象施設】足立区立鋸南自然の家

【評価対象年度】令和5年度 【自己評価】令和6年6月18日 【評価委員会】令和6年8月6日

【評価点】水準を大きく上回る：5点 水準を上回る：4点 水準どおり（水準クリア）：3点
水準を下回る：2点 水準を大きく下回る：1点

大項目		中項目		確 認 項 目			
1 管 理 運 営	(1) 適 切 な 管 理 の 履 行	基本協定や年度協定に沿って適切に管理が行われているか		評 価 点			
				指定管理者	担当課	評価委員	
		①施設管理運営が適正に実施されている ◆需要を見込んだ効率的な開館計画、利用者対応		3	3	4. 2	
		②人員配置 (配置数、専門性) ◆知識・経験・技量を有する人員の配置 (フロント、調理担当、設備担当)		4	4		
		③人材育成の取組み (知識・技術向上) ◆各種研修・講習の開催、スタッフの意識改革プログラムの実行		3	4		
				計①	10	11	(満点＝5点)
				項目数②	3	3	
				評価点①÷②	3. 3	3. 7	
		【アピールポイント】 ・本年度も新型コロナウイルスによる休館はなく、年度計画に従い業務を実施した。下半期はコロナとインフルエンザの流行の影響で、スポーツ団体・優先予約の団体のキャンセルや大幅な人数変更が相次いだ。しかし、年間利用者数（一般利用者の延べ数）9505名・年間稼働率（一般利用者への開館日に対する稼働率）81.41%と目標人数を上回る結果であった。 ・繁忙期には、人員の不足が生じた場合には、各施設に応援依頼し対応した。 ・自然教室2日目の昼食弁当は、本年も昼食場所への配達ではなく、出発時のバス積込みで実施。食中毒リスクを図り保冷バックに保冷剤を入れ各バスに積み込みし、トラブル等は無かった。 ・昨年に引き続き学務課との連絡を密に行い、感染症予防対策を実施。館内での感染拡大の事案は無かった。 ・業務にあたり、法令に準じた有資格者を適切に配置した。 ・「安心」「安全」な施設運営を継続す一環として、防犯、防災講習を外部講師を招聘して行った。 ・会社全体の全従業員を対象とした旅行業改正の講習及び宿泊施設を整える5Sの力の講習を受講した。					
		【改善すべき点・課題等】 スポーツ団体・優先予約の団体のキャンセル、また、大幅な人数変更（減少）の2日前まで受付有効は、食材仕入のロスにつながる為、団体のキャンセル規定の見直しを検討して頂きたい。					
		区記入欄	【特記事項】 ・開館日は116日で計画通りの開館となった。コロナの扱いが5類に移行し観光需要が活発化したこともあり、利用者が大幅に増加した。 ・閉館日に機械警備を取り入れ、人材確保が難しい中職員の負担軽減の体制を進めている。 ・宿泊施設職員に求められるスキルアップの研修や消防署員を招聘した防犯防災の研修など実施、適切な管理につなげている。				
		記 評 入 価 欄 委 員	【評価すべき点】適切な人員配置、研修実施により適切な管理となっている。 【改善すべき点】キャンセル規定はより厳しくしたほうがよい。 【その他注意点】特になし。				
	(2) 改 善 事 項 へ の 取 り 組 み	指定 管 理 者 記 入 欄	前回の評価委員会で指摘された改善事項に対してどう取り組んでいるか		評 価 点		
指定管理者					担当課	評価委員	
①別紙「前回の評価結果の反映状況」を参照			4	4	4. 2		
			計①	4	4	(満点＝5点)	
			項目数②	1	1		
			評価点①÷②	4. 0	4. 0		
【アピールポイント】 ・アンケートの性別について、性別は男女だけでなく「その他」の欄も設け対応している。L G B T Qの存在を社会で受け入れていくことが大切であることを認識し、今後も継続して対応していく。 ・湯温の不安定について、大浴場で給水・給湯の際に使用される適温保持器であるミキシングバルブの経年劣化が要因と思われる不具合が生じた為、学務課へ報告・連絡・相談をし機器の交換対応で改善を図り、湯温不安定は改善された。改善後も温度確認の時間を定めこまめに異常が無いか確認する対応を継続している。 ・自然教室時の食事については、専用保温器を導入したことにより、汁物を従前より温かい状態で提供することが出来るよう改善した。ハンバーグ付随のソースは、食べる直前に弊社配膳職員がソースを掛けるよう改善し、温かい状態での提供ができるよう改善した。冷たいものについても、可能な限り配膳時間を食事開始時間に近づける事を調理並び配膳係で共有し対応に努めている。 ・お客様から頂いたアンケートのご指摘に対し、全スタッフで共有し改善への対応に努めているが、ごはんのパスつきや固いといった配膳前に分かりうる状況については、料理長・支配人・サービススタッフと試食を行い改善の対処を行った。							
【改善すべき点・課題等】 ・体験プログラムに関して、地域の特性を活かした新たな体験プログラムを企画立案し、学校側へ案内が出来るよう検討していく。							
区記入欄			【特記事項】 ・アンケートの性別に「その他」欄を追加、湯温不安定の改善、より良い状態での食事提供等、前回の評価結果を踏まえ適切に反映させて運営を行っている。また、一般利用向けに新たな体験プログラムの実施の準備を進めており、今後自然教室にも生かしていくことが期待される。				
記 評 入 価 欄 委 員			【評価すべき点】前回の評価結果を踏まえて適切に対応している。 【改善すべき点】体験プログラムの充実をこれからも進めてほしい。 【その他注意点】特になし。				

大項目		中項目		確 認 項 目					
1 管 理 運 営	(3) 安 全 性 の 確 保	指定 管理 者 記 入 欄	施設の安全性は確保されているか		評 価 点		評価委員		
			指定管理者	担当課					
			①危機管理体制（防災・防犯・事故対応） ◆消防計画の策定、自衛消防訓練の実施、危機管理マニュアル、緊急時の体制、 ◆館内のセキュリティ管理、夜間警備体制、施設内外の巡回、来所者の把握、鍵の管理 ◆災害用の食糧等の備蓄・補充		3	3	4.0		
			②施設・設備の保守点検、清掃（内容・回数） ◆仕様書に基づく保守点検・環境衛生・園庭管理の実施 ◆仕様書に基づく、清掃・害虫駆除の実施と整理整頓		3	3			
			③施設を安全に管理するための方策 ◆設備の破損や故障などへの迅速な対応		4	4			
		④賄い業務体制と衛生管理の取組み ◆食品衛生・環境衛生への配慮・食中毒の予防など		4	4				
				計①	14	14	(満点＝5点)		
				項目数②	4	4			
				評価点①÷②	3.5	3.5			
		区 記 入 欄	記 評 入 備 委 員	【アピールポイント】 ・令和5年度も施設責任者（支配人）を防火管理者に選任。支配人が中心となって自衛消防訓練を2回実施した。2回目の自衛消防訓練では、消防職員を招聘し、スタッフ全員が有事の際に的確に対応出来るよう再確認し、AEDの取り扱いについても再確認した。 ・AEDの点検については、引き続き区の通達に基づき毎日実施。（AEDを使用する事案は無かった） ・本年度より、休館日の警備体制は機械警備を導入し実施する事で、警備に係る経費の削減を図ったが、非常時には施設内在住の支配人が警備会社と協力し対応出来る体制を整えた。 ・区よりダイヤル式キーボックスを購入頂き、活用することで防犯に努めた。防犯対策では、ネットランチャー・サスマタも用意し有事に備えた。 ・園庭管理業務に関しては、5月、8月、10月と定期業務を実施。それに加え落ち葉や雑草の除去は随時従業員が行う事で景観を保った。 ・定期清掃は、仕様書通りに実施し、特段問題は無かった。 ・設備担当スタッフにより、修理出来る案件は迅速に対応し、専門性の高い修繕に関しては、速やかに区に報告し対処した。 ・食品衛生責任者（料理長）を筆頭に、食品衛生への意識を高め、事故が無いよう務めた。調理業務従事者は、毎月2回細菌検査、年2回ノロウィルス検査を実施 ・朝礼、夕礼の際、調理従事者、食堂スタッフの健康状況を確認し、体調不良のスタッフには従事させないようにした。 ・緊急災害時でも食事提供が出来る様、プロパンガス炊き出しセットを備え、災害備蓄品（リュックサック型）に食料品だけでなく、乾電池等の災害時に必要な物品も常時備蓄し、フロント内に13個保管するとともに自然教室時使用している保健室に必要な備品をそろえ有事の際には活用出来る体制をとった。 ・自然教室昼食のお弁当に関しては、食中毒の危険性を極力減らす為、プラストチラーを使用し急速冷却をすることにより食中毒対策を行っている。さらに、ご飯・おかずに抗菌・鮮度保持シートも利用し対策している。 【改善すべき点・課題等】					
【特記事項】 ・区の災害用備蓄品のほか事業者独自の対策として、携行型の災害用リュックをフロントに常置、プロパンガス炊き出しセットを備えている。 ・消防職員を招聘した消防訓練の実施、防犯対策としてネットランチャー・サスマタを用意するなど有事に的確な対応ができるよう備えている。 ・設備の破損や故障発生時は、区への報告とともに適切な初期対応を行い安全な施設管理がなされている。 ・事業者独自にプラストチラーを設置し弁当の急速冷凍を行うとともに、抗菌鮮度保持シートを利用するなど、食中毒防止に努めている。									
【評価すべき点】消防職員を招聘した訓練、食の安全の取り組みは、素晴らしいと考える。 【改善すべき点】特になし。 【その他注意点】特になし。									
(4) 法 令 等 の 遵 守 （※倫理性も含む）		指定 管理 者 記 入 欄	個人情報保護、各種法令等は遵守されているか		評 価 点		評価委員		
			指定管理者	担当課					
			①個人情報保護の取組み ◆内部規定の策定、研修の実施		4	3	3.3		
			②公契約条例の遵守 ◆労働者等に対して労働報酬下限額以上の賃金等が支払われているか ◆台帳の整備がされているか						
			③各種法令等の遵守 ◆労働基準法、労働安全衛生法等の関係法令は遵守されているか ◆防火管理者・食品衛生責任者等の配置		3	3			
				計①	7	6	(満点＝5点)		
				項目数②	2	2			
				評価点①÷②	3.5	3.0			
		区 記 入 欄	記 評 入 備 委 員	【アピールポイント】 ・個人情報保護については、データアクセスのID制御はないが、個人情報を扱うPCにパスワードを設定し、担当者以外わからないようにするとともに、USB等を用いてのデータ持ち出し禁止を徹底し、（USB保管場所に保管）支配人が管理している。 ・施設的全職員を対象として、マニュアルを元にした個人情報研修を実施し情報共有した。個人情報保護に係る事案やSNSへの不適切な投稿（個人情報・社外秘の漏洩）の事案があった際には、弊社の支配人が集う会議にて情報共有し、支配人よりスタッフへ周知している。（令和5年度は該当事案無し） ・雇用保険については、正社員以外のパート・アルバイトも年間を通じて週20時間以上の勤務があるものは加入している。施設により繁忙期・閑散期があるが、勤務シフトの調整により、4週4日以上以上の休日を与え、また、閑散期には有給休暇の取得を奨励している。また、毎日業務日報（出社時間・休憩時間・退社時間）を本社に提出し個々の労働時間のチェックを行っている。 ・令和5年度も防火管理者は支配人・食品衛生責任者は料理長を選任した。 【改善すべき点・課題等】					
				【特記事項】 ・個人情報に関する研修をフロント職員だけでなく、全職員に繰り返し行い、個人情報への意識を高めている。 ・個人情報は適切に管理されており、個人情報流出等の事故はなかった。					
【評価すべき点】特になし。 【改善すべき点】特になし。 【その他注意点】特になし。									

大項目

中項目

確認項目

1

管理運営

(5)

適切な財務・財産管理

適切な財務・財産管理が行われているか		評価点			
		指定管理者	担当課	評価委員	
指定管理者記入欄	①収支状況(安定的な運営) ◆R5収入の状況 (161,093千円) ※R5目標 (156,003千円) ◆R5年度収支 (-6,952千円)	3	2	3.3	
	②現金や関係書類等の管理、経理処理 ◆受入れた管理費は適切に記帳処理がされているか ◆帳簿・関係書類の整備・保存、経理状況の明確化	3	3		
	③経理関連事故への対応 ◆経理責任者の配置、現金、貴重品の取扱い時の二重チェック体制の構築 ◆経理関連事故(現金の紛失など)の有無	3	3		
		計①	9	8	(満点=5点)
		項目数②	3	3	
		評価点①÷②	3.0	2.7	
区記入欄	【アピールポイント】 ・金銭の管理は本部経理が主導し、施設では小口現金と、宿泊費等の現地精算分の売上金以外は取り扱わない体制を令和5年度も継続した。現地精算分の売上金については、チェックアウト時にフロントシステムの売上状況一覧表でレジの中の現金と売上現金が合っているかを確認し、システム上の日計締処理を行い、売上日計表を出力し再確認、入金、通帳記帳時に入金額と売上額を再確認している。 ・消耗品の購入等は小口現金で行っており、手書きの小口現金出納帳で管理。各種請求書は本社で一括処理を行っている。				
	【改善すべき点・課題等】 ・令和5年度は宿泊者数が想定を上回った事により、収入は年間目標を上回ったが、支出もパート人員の不足を社員で補った事による人件費の増加が主要因で想定を上回り、想定していた収支とならなかった。令和6年度は適切な人材確保と配置に努め改善に努めていく。				
記評価委員	【特記事項】 ・一般開放の大幅な利用者増による消耗品等経費の増加、対応する人員を確保できなかったことによる人件費の増加等により、収支が赤字となった。 ・利用料金の上限が決まっており、利用料金の変更ができないため経費増に対応が難しい面もある。 ・現金の取り扱い、支配人が中心となり、本社と連携して適切に管理を行っている。				
	【評価すべき点】 特になし。 【改善すべき点】 支払い方法の多様化に対応したほうがよい。 【その他注意点】 良いサービスの提供に努めた結果赤字となった。利用者が増えると赤字になる使用料の問題について区の改善を求めたい。				

2事業効果

(6)事業の取り組み

事業計画どおりのサービスが提供されているか		評価点		評価委員	
		指定管理者	担当課		
指定管理者者記入欄	①一般利用者に向けた自主企画の実施 ◆地域特性を活かしたプログラムの実施・新規プログラムの開拓と実施 ◆閑散期に利用者増を目的に実施する企画やサービス等の実施	4	3	4.3	
	②一般利用者にもむけた新しい業務の取り組み ◆食事の質の向上への取り組み、季節にあわせたメニューの提供、特別料理の提供など	4	4		
	③利用率向上に向けた情報発信 ◆SNS、広報等の活用等 ◆区民利用を促すための独自の広報戦略	4	3		
	④区民サービス向上に向けた取り組み・方策 ◆区民（利用者）がより快適な時間をすごせるサービスの提供 ◆車いす利用者、高齢者、障がい者、子育て世帯等、多様な利用者への対応	4	4		
	⑤地域特性に配慮した取り組み ◆近隣施設等との連携および成果 ◆施設周辺の人材活用などを積極的に行っているか	3	4		
		計①	19	18	(満点＝5点)
		項目数②	5	5	
		評価点①÷②	3.8	3.6	
指定管理者者記入欄	【アピールポイント】 ・一般利用時のお子様向けのイベントは、昨年好評の「壁画水族館クイズ」「バードコール（鳥笛）づくり」「鹿の角アクセサリ作り」を実施。また、お正月には、宿泊者全員参加型のビンゴ大会を実施し、お客様アンケートにたくさんの高評価のコメントを頂いた。全て参加費無料で実施。 ・電車利用のお客様には、施設と駅間の無料送迎を継続して実施。 ・一般利用者の食事メニューは季節ごとに変更し、お正月にはお雑煮・正月料理・特別メニューを提供する事で満足度向上に努めた。 ・SNS、広報等の活用等については、X（旧Twitter）を活用（イベント・観光情報・最新グルメ等）を発信（56回投稿）して情報発信に努めた。 許可を頂いたお客様にはDM送付も行っている。FB、Instagramも検討中。 ・車いす利用のお客様には、302号室を確保し、また、何かしらの事情で大浴場を利用出来ないお客様には2階小浴場をご利用頂いた。				
	【改善すべき点・課題等】				
区記入欄	【特記事項】 ・施設の壁画を利用した水族館クイズ、バードコールづくりや鹿の角アクセサリづくりなど地域の方と連携した自主企画を実施、お正月にはビンゴ大会を行うなど様々なイベントを行っている。また、季節にあわせたメニューや特別料理を提供し好評を得ている。 ・SNS投稿、あだち広報、HP掲載などにより利用率向上のための広報戦略を図っている。特にSNSでは、館内イベント情報を中心に投稿を行い、利用率増を図っている。（令和5年度は56回投稿） ・車いす、盲導犬利用のお客様へはバリアフリールームを用意し、シャワー室・小浴室の利用の案内など快適に宿泊できるサービスを実施している。おもてなしの心遣いを大事にしており、利用者の満足度も高い。				
	【評価すべき点】 地元の方と連携した自主企画の実施や地産地消の姿勢は評価できる。今後も継続し地元と良好な関係の継続をお願いしたい。 【改善すべき点】 ホームページの充実・改善を進めてほしい。 【その他注意点】 イベント企画・周知の効果もあり利用者増につながったと考えられる。				
記評価委員					

大項目

中項目

確認項目

2 事業 効果	(7) 利用 の 状 況	計画どおりの利用状況となっているか		評価点				
				指定管理者	担当課	評価委員		
		①利用状況 ◆年間利用者数（一般利用者の延べ数）		4	5	4.8		
		②施設稼働率 ◆年間稼働率（一般利用者への開館日に対する稼働率）		4	5			
				計①	8	10	(満点=5点)	
				項目数②	2	2		
				評価点①÷②	4.0	5.0		
		指定 管理 者 記 入 欄		【アピールポイント】 ・年間利用者数（一般利用者の延べ数）9505名・年間稼働率（一般利用者への開館日に対する稼働率）81.41% 目標人数を大幅に上回った ・本年度も新型コロナウイルスによる休館はなく、年度計画に従い業務を実施したが、下半期コロナとインフルエンザが流行り、その影響でスポーツ団体・優先予約の団体のキャンセル及び大幅な人数変更が相次いだ。 【改善すべき点・課題等】 一般利用のお客様の利用が少ない冬季について、イベントの開催等による集客の強化を図っていきたい。				
		区 記 入 欄		【特記事項】 ・下半期、インフルエンザやコロナの流行によるキャンセルが多数発生したが、全体としては昨年度にくらべ使用実績は大幅に増加した。 ・利用者数・稼働率とも目標値（利用者数6,540人・稼働率60%）を上回った。				
		記 評 価 委 員 欄		【評価すべき点】計画（目標値）を大幅に上回った実績となっている。 【改善すべき点】特になし。 【その他注意点】特になし。				
	(8) 利用 者 の 満 足 度	利用者の満足を得られているか		評価点				
				指定管理者	担当課	評価委員		
		①従業員の接客態度 ◆親切さ、説明のわかりやすさ、電話対応等、アンケート（従業員の対応）の評価		4	5	4.7		
		②施設・設備 ◆施設の清潔さ、使いやすさ、案内サイン等、アンケート（客室・風呂）の評価		4	5			
		③食事 ◆提供する内容、アンケート（食事の味や量）の評価		4	5			
		④苦情（クレーム）・要望対応 ◆苦情・要望等の対応の適切さ・迅速さ		4	3			
				計①	16	18	(満点=5点)	
				項目数②	4	4		
				評価点①÷②	4.0	4.5		
		指定 管理 者 記 入 欄		【アピールポイント】 ・アンケートは各項目を数値化し問題点・要望を把握し、本社にも報告し月一回の支配人会議で議論、改善策の策定・指導を行っている。 ・一般利用者お客様アンケートでは、令和5年度も全項目において概ね良好な評価を頂いており、お客様に満足して頂けると判断している。 ・食事では、量が多すぎると言った指摘も少意見あったが、概ね満足していると評価を頂いている。また、お正月の特別メニューは好評だった。 ・お客様からのご要望・ご指摘・ご意見を頂いた案件については、即座に支配人より担当者へ伝達、改善を図った。また、学務課へも報告し、共有している。 【改善すべき点・課題等】				
区 記 入 欄		【特記事項】 ・従業員の接客態度は非常に丁寧で、お客様アンケートでも非常に高い評価を受けている。 ※アンケートの満足+大いに満足の割合（従業員の接客:97.5%/清掃:91.3%/食事:92.5%） ・苦情対応も、事業者ができることはすぐに対応しており、丁寧な対応をしている。						
記 評 価 委 員 欄		【評価すべき点】お客様アンケートでどの項目も高い評価を得ている。 【改善すべき点】特になし。 【その他注意点】特になし。						

大項目		中項目		確 認 項 目				
2 事 業 効 果	(9) 自然教室への取り組み	自然教室について適切に運営がされているか		評 価 点				
		指定管理者	担当課	評価委員				
		①校外学習の向上に向けた取り組み・方策 ◆児童が集団生活の中で、社会性・自律性・創造性を学ぶためへの支援 ◆施設内や施設外の附属設備で実施可能なプログラムの検証・提案		3	3	3.7		
		②食育に向けた取り組み・方策 ◆食への感謝と理解を深め、食に対する楽しさや興味への喚起、食材や栄養への知識の提供 ◆栄養バランスの整った食事、地元食材を取り入れた食事の取組み		3	3			
		③児童のアレルギー対応 ◆学校との打ちあわせ、チェック体制、配膳方法		4	5			
		④感染症対策（感染性胃腸炎他） ◆予防と拡大防止、児童の健康情報の学校との共有化		3	3			
				計①	13		14	
				項目数②	4	4	(満点＝5点)	
				評価点①÷②	3.3	3.5		
		指定管理者者記入欄		【アピールポイント】 ・アレルギー対応については、専用対応カードを作成し学校側との事前やり取りを密に行い、当日はアレルギー受渡し場所にて引率教諭と対象児童と施設責任者の3者立会いにより食事を指差し確認して渡すことを徹底し、事故はなかった。 ・配膳係の児童に手袋を用意し配膳を行ってもらう事で感染症防止に努めた。 ・アレルギー持参食対応では持参した食材を学校側と支配人で喫食日毎のメニューを確認お預かりし料理長と保管場所の確認を行い提供している。 【改善すべき点・課題等】 ・アレルギー対応について、施設への提出書類期限の厳守、学校側のアレルギー調査票の理解の向上など、今後も事故が無い状態を継続する為、学校側のより一層の協力も必要と感じている				
		区記入欄		【特記事項】 ・アレルギー対応は、きめ細やかに対応しており、自然教室での事故はなく、学校の評価も高かった。 ・添加物の入った食材をなるべく減らし、地元の特産品のアジフライを献立に取り入れるなど、食育への取り組みを行っている。 ・自然教室がスムーズに運営できるよう学校を支援しているが、各学校に体験プログラムの提供をするところまでは至っていない。				
		区記入欄		【評価すべき点】 アレルギー事故がなかったことを高く評価する。今後もアレルギー事故ゼロで当然という姿勢で取り組んでいただきたい。 【改善すべき点】 学校へのプログラム提案を工夫してほしい。 【その他注意点】 特になし。				
		10 自然教室における学校の満足度	(10) 自然教室における学校の満足度	自然教室において学校の満足を得られているか		評 価 点		
				指定管理者	担当課	評価委員		
				①施設・運営 ◆教員・児童への対応、施設の清潔さ、学校からの実施報告書での評価等		5	5	4.8
				②食事 ◆学校からの実施報告書による味付け・量・残菜等の評価		4	5	
				③児童のけが・病気への対応 ◆施設看護師の処置・手当て、病院への送迎等		4	5	
				計①	13	15	(満点＝5点)	
				項目数②	3	3		
				評価点①÷②	4.3	5.0		
指定管理者者記入欄				【アピールポイント】 ・自然教室の実施報告書では、各学校より概ね良好な評価を頂けた。急な予定変更・児童の病院搬送など迅速な対応には評価を頂けた。引き続き事故の無い様々な面に気を配り対応していく ・昨年同様食事の提供においては、汁物は長時間保温可能な専用保温器での対応を行った。 ・感染症及び怪我人がでる有事に備え、いつでも病院搬送できる様務めた。 ・看護師も24時間常勤し、非常時の対応に備えた。 【改善すべき点・課題等】 食事係の準備開始から「いただきます」までの時間が約25分～30分位かかってしまい、食事が冷たいと感じる一因となっていると感じている。食事係がなるべく時間をかけずに配膳を終えられるよう各学校と連携していきたい。				
区記入欄				【特記事項】 ・学校からの実施報告書での大変よい＋よいの割合（運営：98.5％／食事：91％／病気対応：91.6％） ・適切に学校が実施する自然教室に対し支援をしており、学校からの感謝の声も多い。 ・自然教室中の児童の発病や病院搬送に対し、きめ細かい対応を行っている。				
区記入欄				【評価すべき点】 野菜のたくさん入ったスープなど食事内容が以前にくらべて良くなったと感じる。 【改善すべき点】 特になし。 【その他注意点】 すべての項目で高い評価を得ている。今後も工夫と改善をお願いしたい。				
				36.7	38.4	41.3		
				(満点＝50点)	(満点＝50点)	(満点＝50点)		
評価委員 評価意見				基本的に充実した運営が実現されている。地元の方とのイベント企画・周知の効果もあり利用者増につながったと考えられる。 自然教室についても食事の提供内容に改善があり満足度が高くなった。 Wi-Fi環境を整備してほしい。 ホスピタリティの高い接客の継続を期待する。				

【評価委員会評価結果】

評価委員会 評価結果	得点	評価
	41	A-

ランクダウン
有 (無)

総合評価
A-

※評価結果は評価委員会が行う。
※小数点以下は切り捨て、整数とする。

【指定管理者への改善要望】
基本的に充実した運営が行われている。今後も満足度の高い施設運営のため、工夫と改善を重ねていただきたい。 更なる集客力の向上のためにも、ホームページの充実、改善を進めてほしい。 体験プログラムの充実を進め、学校へのプログラム提案につなげてほしい。

【評価委員会評価基準】

評点		評価基準						
満点	標準点	75%以上			～			54%以下
		A+	A	A-	B+	B	B-	C
50	30	45点以上	42点以上 44点以下	38点以上 41点以下	34点以上 37点以下	30点以上 33点以下	28点以上 29点以下	27点以下
得点率		90%以上	～	83%以下	67%以上	～	59%以下	54%以下

※「標準点」……評価項目が全て「3」（水準クリア）の評価を受けた場合の得点。
※「A」は満点の0.75倍以上（小数点以下切上げ）、「C」は満点の0.54倍以下（小数点以下切捨て）とする。

足立区立校外施設指定管理者評価委員会
業務評価シート

【評価対象施設】 足立区立日光林間学園

【評価対象年度】 令和5年度 【自己評価】 令和6年6月18日 【評価委員会】 令和6年8月6日

【評価点】 水準を大きく上回る：5点 水準を上回る：4点 水準どおり（水準クリア）：3点
水準を下回る：2点 水準を大きく下回る：1点

大項目	中項目	確認項目			
1 管理運営	(1) 適切な管理の履行	基本協定や年度協定に沿って適切に管理が行われているか		評価点	
				指定管理者	担当課
				評価委員	
		①施設管理運営が適正に実施されている ◆需要を見込んだ効率的な開館計画、利用者対応		3	3
		②人員配置（配置数、専門性） ◆知識・経験・技量を有する人員の配置（フロント、調理担当、設備担当）		3	3
		③人材育成の取組み（知識・技術向上） ◆各種研修・講習の開催、スタッフの意識改革プログラムの実行		3	3
				3.0	
				(満点=5点)	
				計①	
				項目数②	
				評価点①÷②	
		【アピールポイント】 開館日は学校様や一般利用者様の受け入れ繁忙期を意識して設定した。各部署ごとに知識、経験のあるものを中心にご利用人数に応じた柔軟な人数配置を行うため、通常の施設勤務者に加え、弊社の他施設からのヘルプの為に移動により必要な人員を確保した。 ・設備の保守点検、検査等の為に委託業者と十分な確認をとり、指定管理仕様書に従い、設備トラブルのない管理ができた。また、次回につなげられるよう営繕担当者、施設担当者として完了後の検証確認を綿密に行った。 ・指定管理仕様書を基に清掃計画を立て、建物内を清潔に保ち、屋外は常勤スタッフによる毎日の清掃、樹木の手入れ等により景観の向上に努めた。 ・看護師は経験豊かな有資格者を配置し適切な対応を行うことができた。また夜間の警備に関しても支配人を中心に経験豊かなスタッフを配置し大きなトラブルもなく進めることができた。 ・本社専門スタッフからHACCPについての説明会を実施、また、外部の検査機関による厨房食衛生検査、社内管理衛生栄養室検査と年2回の改善指導、また施設管理の為に定期的なミーティング等、事故の防止、専門知識の共有、スタッフ全員の業務内容の把握とレベルアップを常に図っている。			
		【改善すべき点・課題等】 ・上期は受け入れの為に引継ぎ、把握が十分にできておらず対応が後手になることがあったが、下期は改善を進め料理等満足の評価を多くいただける状況となった。 ・昨年度の経験を生かした業務の進め方ができてきており、心配りのある接客対応を常に心掛けるよう進めていきたい。また人員配置も計画的に進めていく。 ・引き続き勉強会、ミーティングを実施し、個人のパフォーマンスを上げていくとともに、人材の定着、確保の為に改善も併せて進めていく。また、繁忙期を除く週末の利用に関しましては利用人数の幅が大きく再度検討していく。			
		区記入欄 【特記事項】 ・開館日は102日で、計画どおりの開館となった。 ・繁忙期、閑散期にあわせ、知識や経験に応じた柔軟な人員配置が行われていた。 ・安心安全なサービス提供のための各種勉強会を実施し個々のスキルアップに努めている。			
		記評価委員 【評価すべき点】 特になし。 【改善すべき点】 繁忙期以外の週末の利用見込みの分析により柔軟に対応できるように改善を図りたい。 【その他注意点】 特になし。			
		前回の評価委員会で指摘された改善事項に対してどう取り組んでいるか		評価点	
				指定管理者	担当課
				評価委員	
		①別紙『前回の評価結果の反映状況』を参照		3	3
				3.0	
				(満点=5点)	
				計①	
				項目数②	
				評価点①÷②	
		【アピールポイント】 ・利用者様の満足をさらに高め、利用率の向上を図れるよう利用者様の反応、お声を意識した料理内容に一新した。 またウエルカムドリンクのコーナーや子供広場を設置し、楽しんで頂ける時間や空間の提供を心掛けた。 ・省エネを意識した管理を心掛け、設備関連の依頼業者の選定においても金額と内容を十分精査の上決定し、年間計画を立て実施した。食材、消耗品の発注から請求までの管理をインフォーマートによるWEB上で行い、時間、経費削減、業務効率化を図っている。 ・地元特産の湯葉や地元野菜の使用などできる限り地産地消を意識して提供、ご満足頂ける料理を提供できるよう反応を確認すること、お声を生かしたメニュー作りを行った。 ・温かい料理は食事開始直前に、また食事開始後すぐの後出し料理とするなど丁寧な料理提供に努めた。			
		【改善すべき点・課題等】 ・食事の際の利用者様からのご要望などお声を活かした料理の提供を行ってきたい。また料理の献立や地元食材の案内等、より食事を楽しんでいただける工夫をしていきたい。 ・さらなる満足につながるよう情報発信や新しいイベントの提案を検討していきたい。			
		区記入欄 【特記事項】 ・節電に努める、保守点検業者選定に十分な検討を重ねるなど、コスト意識を持った施設運営を行い収支は黒字となった。 ・これまでとは違う自主企画（子どもの遊び場コーナー、地酒の見積もりなど）を行い利用率向上の努力を進めている。 ・地元特産の湯葉や地産地消を意識し地元野菜を使用した料理の提供を行うとともに、利用者の方の反応や確認し改善をおこなった。			
		記評価委員 【評価すべき点】 ドリンクサービスなど利用者にとってうれしいサービスの継続と新たなサービスの開発を期待したい。 【改善すべき点】 特になし。 【その他注意点】 特になし。			

大項目		中項目		確 認 項 目				
1 管 理 運 営	(3) 安 全 性 の 確 保	施設の安全性は確保されているか		評 価 点		評価委員		
		指定管理者	担当課					
		指定 管理 者 記 入 欄	①危機管理体制（防災・防犯・事故対応） ◆消防計画の策定、自衛消防訓練の実施、危機管理マニュアル、緊急時の体制、 ◆館内のセキュリティ管理、夜間警備体制、施設内外の巡回、来所者の把握、鍵の管理 ◆災害用の食糧等の備蓄・補充		3	3	3.0	
			②施設・設備の保守点検、清掃（内容・回数） ◆仕様書に基づく保守点検・環境衛生・園庭管理の実施 ◆仕様書に基づく、清掃・害虫駆除の実施と整理整頓		3	3		
			③施設を安全に管理するための方策 ◆設備の破損や故障などへの迅速な対応		3	3		
			④賄い業務体制と衛生管理の取組み ◆食品衛生・環境衛生への配慮・食中毒の予防など		3	3		
				計①	12	12	(満点＝5点)	
				項目数②	4	4		
				評価点①÷②	3.0	3.0		
		区 記 入 欄	【アピールポイント】 ・設備管理担当者、警備、フロントスタッフを中心とした全体のミーティングを実施。 ・消防訓練の実施時に各自の役割の確認、指導と教育を行い、全員に緊急対応への意識づけを行った。また、日頃より不具合箇所のチェックを行い、すぐに報告や相談を行うよう指導している。 ・HACCPによる食品、従事者、器材等の衛生管理を行い、安心安全な食事の提供をすすめることができた。またHACCPをきちんと実施するための勉強会、ミーティングを行なった。 HACCPが確実に実施されているかを確認するための外部委託業者に点検評価を依頼した。また、弊社の衛生栄養管理室による点検評価を実施した。 ・夜間警備の際には機械警備と合わせて巡回警備を行なった。また、夜間非常時に対応できるスタッフを警備員の他に確保し、緊急時にも対応できる体制を整えた。 ・鍵は各担当者による確認を実施し、紛失等のトラブルは一切発生しなかった。災害非常時にも対応できるよう、お米、水、調味料、食材を一定数（1週間程度）確保し、緊急時にも食事がとれる体制をとった。					
	【改善すべき点・課題等】 ・設備の把握が上期は不十分で消防署等への書類提出等の遅れがあった。下期は計画的な施設管理、届け出書類等を適切に進めることができた。なお、年間計画をしっかりと見直し確実に実施していきたい。 ・今後も火災や災害を想定した訓練、ミーティングや勉強会を行い、緊急時対応のレベルアップを図りたい。							
	【特記事項】 ・消防訓練のほか、非常時の対応についてのミーティング等により、緊急対応時の意識づけを行っている。 ・指定管理初年度ということもあり、設備の保守点検や園庭管理等に遅れが生じる部分もあったが、年間を通じて見ると必要な保守点検は実施されている。 ・区の災害備蓄品の他、事業者独自に食材を一定数確保し災害非常時に備えている。 ・設備の不具合が生じた時はすぐに区に報告の上対応している。							
	記 評 入 欄 委 員	【評価すべき点】 特になし。 【改善すべき点】 特になし。 【その他注意点】 特になし。						
	(4) 法 令 等 の 遵 守 （※倫理性も含む）	個人情報保護、各種法令等は遵守されているか		評 価 点		評価委員		
		指定管理者	担当課					
		指定 管理 者 記 入 欄	①個人情報保護の取組み ◆内部規定の策定、研修の実施		3	3	3.0	
			②公契約条例の遵守 ◆労働者等に対して労働報酬下限額以上の賃金等が支払われているか ◆台帳の整備がされているか		3	3		
			③各種法令等の遵守 ◆労働基準法、労働安全衛生法等の関係法令は遵守されているか ◆防火管理者・食品衛生責任者等の配置		3	3		
					計①	9	9	(満点＝5点)
				項目数②	3	3		
				評価点①÷②	3.0	3.0		
		指定 管理 者 記 入 欄	【アピールポイント】 ・個人情報の管理保護、法令の遵守に関しましては社内勉強会、ミーティングにより全員に指導教育を行い徹底されている。各パソコンにはパスワードが設定されており、担当者以外は使用ができないようになっている。 ・令和5年度も個人情報漏えい事故は無く、引き続き、指導徹底を行っていく。 ・入社時には仕事上で知りえた秘密の保持に関する誓約書を従業員全員が提出している。 労働環境に関しても同様に法令を遵守し、雇用、社会保険の加入が適切に行われており、本社人事部長が最終管理を行なっている。 ・休日、有給休暇の取得も含めてシフト調整を行っている。 ・各個人と面談時間を定期的に設け、働きやすい環境を作るよう進めている。 ・勤怠管理もクラウドの勤怠管理システム「キングオブタイム」の使用により、本社でリアルタイムで確認管理を行い、作業効率のアップとコスト削減を図っている。					
			【改善すべき点・課題等】 ・上期は各部門ごとの勤務時間の把握が充分でできておらず、勤務時間に影響が多少あったが、下期は各従業員の時間管理を適切に行うことができた。 ・従業員数の確保もほぼ予定通り進み、労働時間も含めた労働環境も整えることができた。 ・今後も個人情報保護、法令順守のための説明会等を行い意識を高めていきたい。					
			【特記事項】 ・個人情報に関する勉強会を全員態勢で行い職員の意識を高めている。 ・個人情報流出等の事故はなかった。 ・労働報酬下限額以上の賃金の支払い等公契約条例は遵守されている。					
		区 記 入 欄						
記 評 入 欄 委 員		【評価すべき点】 特になし。 【改善すべき点】 特になし。 【その他注意点】 特になし。						

大項目 中項目		確 認 項 目			
1	管理運営	(5) 適切な財務・財産管理	適切な財務・財産管理が行われているか		評価点
				指定管理者	担当課
					評価委員
			①収支状況(安定的な運営) ◆R5収入の状況 (113,567千円) ※R5目標 (120,701千円) ◆R5年度収支 (872千円)	3	3
			②現金や関係書類等の管理、経理処理 ◆受入れた管理費は適切に記帳処理がされているか ◆帳簿・関係書類の整備・保存、経理状況の明確化	3	3
			③経理関連事故への対応 ◆経理責任者の配置、現金、貴重品の取扱い時の二重チェック体制の構築 ◆経理関連事故(現金の紛失など)の有無	3	3
				計①	9
				項目数②	3
				評価点①÷②	3.0
					(満点=5点)
2	事業効果	(6) 事業の取り組み	事業計画どおりのサービスが提供されているか		評価点
				指定管理者	担当課
					評価委員
			①一般利用者に向けた自主企画の実施 ◆地域特性を活かしたプログラムの実施・新規プログラムの開拓と実施 ◆閑散期に利用者増を目途に実施する企画やサービス等の実施	3	3
			②一般利用者にもつれた隋い業務の取り組み ◆食事の質の向上への取り組み、季節にあわせたメニューの提供、特別料理の提供など	3	3
			③利用率向上に向けた情報発信 ◆SNS、広報等の活用等 ◆区民利用を促すための独自の広報戦略	3	3
			④区民サービス向上に向けた取り組み・方策 ◆区民(利用者)がより快適な時間をすごせるサービスの提供 ◆車いす利用者、高齢者、障がい者、子育て世帯等、多様な利用者への対応	3	4
			⑤地域特性に配慮した取り組み ◆近隣施設等との連携および成果 ◆施設周辺の人材活用などを積極的に行っているか	3	3
				計①	15
				項目数②	5
2	事業効果	(6) 事業の取り組み		評価点①÷②	3.0
					3.2
					(満点=5点)
			【アピールポイント】 ・お子様が多いGWや夏休み等には子供広場を作り、玩具やゲーム、花火等を用意、また大人の方にはウエルカムドリンクの無料サービスを行った。 ・特産のゆばを使った料理や地元でとれる野菜、果物等を使った料理を提供。また、一般的な同じような料理内容にならない様に、中華料理を加えるなど、変化を持たせた料理内容とした。 ・下期は利用者様からご希望の多い会席料理をご用意し、季節感のある料理提供を心掛けた。またお客様からのお声を活かした料理の提供、内容の改善を行った。(朝食時にコーヒーの提供を行った。) ・障害者の方や高齢者の方にも食堂のお席やお部屋割り、職員用浴室の利用など、より丁寧な案内、サービスを心掛けた。 ・ご利用者数が多い場合には、弊社が管理する品川区の施設からヘルプを要請し、効率的な人員配置を行うことができた。 ・東武日光駅、JR日光駅から林間学園までの無料送迎を実施し利便性向上に努めた。 ・食事やサービスを安心してご利用頂くために、HACCPによる徹底した衛生管理を行った。また毎月2回の細菌検査をスタッフ全員に実施した。 ・従業員に携帯用HACCPマニュアルハンドブックを配布し衛生意識の徹底を図った。 ・専門機関による厨房検査と社内衛生栄養管理室による厨房検査の合計年2回の厨房衛生検査を実施した。		
			【改善すべき点・課題等】 ・上期は十分な把握ができておらず、お客様からのニーズにこたえた料理提供ができていなかったが、下期は利用者様の声を多く取り入れた料理内容に変更し、高評価を頂くことができた。 ・今後は観光施設の案内やイベントなどの情報発信をさらに進めていきたい。		
			【特記事項】 ・特産の湯葉を使った料理や地元の食材を生かした料理を取り入れながら季節に合わせたメニュー提供をしている。 ・子供向けプレゼント企画、大人向けの地酒飲み比べ企画など、集客のためのイベントを実施している。 ・障害者の方や高齢者の方には食堂のお席やお部屋割り、職員用浴室の利用など、より丁寧な案内、サービスを行っている。 ・ウエルカムドリンクの提供や子供遊び場コーナーの設置など、利用者の方がより快適に過ごせるサービスを提供している。		
			【評価すべき点】 特になし。 【改善すべき点】 ホームページの充実・改善をお願いしたい。 【その他注意点】 上半期の反省を踏まえて料理の見直しなど改善に努めている。		

大項目

中項目

確認項目

（7）利用の状況

2事業効果

（8）利用者の満足度

計画どおりの利用状況となっているか		評価点			
		指定管理者	担当課	評価委員	
指定管理者記入欄	①利用状況 ◆年間利用者数（一般利用者の延べ数）	3	2	2.3	
	②施設稼働率 ◆年間稼働率（一般利用者への開館日に対する稼働率）	3	2		
	計①		6	4	（満点＝5点）
	項目数②		2	2	
	評価点①÷②		3.0	2.0	
区記入欄	【アピールポイント】 ・一般利用者の設定日は繁忙期のGW、お盆、正月等に関しましてはほぼ目標とした利用人数となったが週末の利用については 日によって利用者数の幅が大きく、予算に対し実収入が施設利用料66.2%、賄費72.6%と下回る結果となった。 ・ご予約後のキャンセルが多くあったが、下期は早めの確認と、キャンセル待ちのご予約の対応等を行うことで、ある程度予約後の人数減を改善することができた。				
	【改善すべき点・課題等】 ・一般利用者の受け入れ日数が前年より少ないこともあり、当初計画した試算と大幅に食い違いがあった。今後は過去の実績にとらわれず柔軟に検討改善を加えて行きたい。またホームページなどを生かし積極的に宣伝告知等を行い集客を図りたい。				
区記入欄	【特記事項】 ・年間利用者数は昨年度実績（4,023人）を上回ったが、目標値（利用者数6,500人・稼働率52.3%）には至らなかった。 ・指定管理初年度であること、ここ数年のコロナの影響で利用者見込みを予測しづらい状況もあり、目標値を下回る結果となった。 ・優先利用の団体のキャンセルがあり、直前に空室が発生してしまうことも、利用者数が伸び悩む一因と考えられる。 ・利用見込みの分析を行い適切な開館日の設定を行うとともに、地元と連携したイベントの企画や施設の魅力を伝える広報を期待する。				
	【評価すべき点】特になし。 【改善すべき点】利用見込みの分析を行うとともに、集客のためのイベントの企画や施設の周知を工夫されたい。 【その他注意点】特になし。				
指定管理者記入欄	利用者の満足を得られているか		評価点		評価委員
			指定管理者	担当課	
指定管理者記入欄	①従業員の接客態度 ◆親切さ、説明のわかりやすさ、電話対応等、アンケート（従業員の対応）の評価	4	5	3.8	
	②施設・設備 ◆施設の清潔さ、使いやすさ、案内サイン等、アンケート（客室・風呂）の評価	4	5		
	③食事 ◆提供する内容、アンケート（食事の味や量）の評価	3	4		
	④苦情（クレーム）・要望対応 ◆苦情・要望等の対応の適切さ・迅速さ	3	3		
	計①		14	17	（満点＝5点）
項目数②		4	4		
評価点①÷②		3.5	4.3		
指定管理者記入欄	【アピールポイント】 ・丁寧なサービスを全員で心掛けており、アンケートではフロント、サービスとも好評価を頂いている。 ・ウエルカムドリンクの提供や子供広場を設置し、楽しんでいただける時間や空間を心掛けた。 ・従業員への日々の指導、ミーティング、勉強会を行うとともに、利用者様からの声とスタッフからの提案や改善点を取り入れ、サービスや料理の評価の向上につなげることができた。（浴室利用の際、着替えが外から見えてしまうとの声に対し、カーテンを取り付けるなどご不満の声に対しすぐに対応することができた。） ・また、近隣の観光施設の案内など、ご要望に沿った案内を行うことができた。 ・お料理に関しても利用者様からのご要望にそった会席料理に変更し、上期より多くの満足のお声を頂くことができた。 ・また予約に関しましても予約を頂いた方全員にハガキの送付を行い、予約内容の行き違いなどのトラブルの起こらない形に変更した。				
	【改善すべき点・課題等】 ・上期は把握不足により、お客様にニーズにこたえられる柔軟な対応が十分できていなかった。 ・今後も利用者様からのニーズ答えられる様、施設や周辺の情報等の知識の共有、個々のレベルアップの為に勉強会等を引き続き行いたい。 ・利用者様から「緊急時に携帯電話通信環境が悪く繋がらない。」など設備に関する声には、事務所の電話をご利用頂くなど、できる限り柔軟に対応していきたい。				
区記入欄	【特記事項】 ・お客様アンケートでは、良好な評価を受けている。 ・アンケートの「大いに満足＋満足」の割合（従業員の態度:92.8%／清掃:94.2%／食事:82.1%） ・利用客の年齢層に合わせたメニューの改善等、お客様アンケートの要望について、事業者ができることはすぐに実施している。				
	【評価すべき点】 お客様さまアンケートの結果が後半に向けて満足度が高くなってきているので、企業努力がうかがえる。 【改善すべき点】 自主企画の充実とPRをすすめていただきたい。お客様さまアンケートの選択肢「やや満足」は「普通」に変えたほうがよい。 【その他注意点】 特になし。				
区記入欄					

大項目		中項目		確 認 項 目			
2 事 業 効 果	(9) 自然 教室 への 取り 組 み	自然教室について適切に運営がされているか		評 価 点			
				指定管理者	担当課	評価委員	
		①校外学習の向上に向けた取り組み・方策 ◆児童が集団生活の中で、社会性・自律性・創造性を学ぶためへの支援 ◆施設内や施設外の附属設備で実施可能なプログラムの検証・提案		3	3	2.8	
		②食育に向けた取り組み・方策 ◆食への感謝と理解を深め、食に対する楽しさや興味への喚起、食材や栄養への知識の提供 ◆栄養バランスの整った食事、地元食材を取り入れた食事の取組み		3	3		
		③児童のアレルギー対応 ◆学校との打ちあわせ、チェック体制、配膳方法		4	4		
		④感染症対策（感染性胃腸炎他） ◆予防と拡大防止、児童の健康情報の学校との共有化		3	3		
				計①	13	13	(満点=5点)
				項目数②	4	4	
				評価点①÷②	3.3	3.3	
		指定 管理 者 者 記 入 欄		【アピールポイント】 ・上期は把握不足で満足頂けるサービスの提供が十分できていなかったが、下期からは経験と事前の確認により各学校様からのご要望に柔軟に対応できた。 ・HACCPを基にした食材、従事者、設備の徹底した衛生管理により安心安全な料理の提供を社員全員に徹底した。 ・地産地消を心掛け、また地元特産の湯葉を使った料理の提供を行った。 ・アレルギー対応に関しても事前の連絡確認を緊密にとり、料理長、副支配人との徹底した確認作業により、トラブルや事故の無いよう進めることができた。 【改善すべき点・課題等】 ・安心安全な地産地消を考えた献立としたが、より児童様に喜んで、しっかりと召し上がっていただける料理の内容にさらに改善していきたい。 ・HACCPの外部業者、社内栄養室による検査でも、より高い評価点を得て、スタッフ全体の意識を高めて、事故の無い料理の提供を行っていく。			
		区 記 入 欄		【特記事項】 ・年度初めは自然教室受入れの流れについて把握不足があり、対応の不備や遅れがあったが、下期にかけては改善され、適切に運営された。 ・地元特産の食材、地産地消を心がけたメニューを提供するなど、食育に向けた取り組みも行っている。 ・アレルギー対応は専任スタッフが対応し、本社の管理栄養士と適宜相談しながら対応にあたり、事故はなかった。			
		記 評 入 欄 委 員		【評価すべき点】アレルギー事故がなかったことは評価できる。 【改善すべき点】スタッフ一人一人が主体性を持ち、アレルギー対策、感染症対策などに対して意識を持って取り組んでほしい。 【その他注意点】特になし。			
		(10) 自然 教室 にお ける 学 校 の 満 足 度	自然教室において学校の満足を得られているか		評 価 点		
	指定管理者				担当課	評価委員	
	①施設・運営 ◆教員・児童への対応、施設の清潔さ、学校からの実施報告書での評価等		3	4	3.5		
	②食事 ◆学校からの実施報告書による味付け・量・残菜等の評価		3	3			
	③児童のけが・病気への対応 ◆施設看護師の処置・手当て、病院への送迎等		4	5			
			計①	10	12	(満点=5点)	
			項目数②	3	3		
			評価点①÷②	3.3	4.0		
	指定 管理 者 者 記 入 欄		【アピールポイント】 ・それぞれの学校様のご要望にできる限り添えるよう、ナイトレクや貸出品など当日急に連絡頂いた場合でも柔軟な対応を行うことができた。 ・アレルギー対応、従業員の衛生管理の勉強会を定期的に実施し、安心安全な食事の提供を実施。また、児童の体調不良の連絡があった場合には迅速な対応を心掛け、看護師と確認を密にとりながら、病院への連絡から手配、病院への体調不良の児童と先生の送迎など、適切に行うことができた。 ・料理に関してはボリューム、内容等満足との声を多く頂くことができた。 【改善すべき点・課題等】 ・前半は把握不足によりミスや対応の遅れがあったが、後半はより各学校様のご要望に沿った対応を心がけてすすめた。 ・事前の十分な確認準備と全体、部門ごとのミーティングを定期的に行い、よりスムーズで質の高い対応を行っていく。				
	区 記 入 欄		【特記事項】 ・学校からの実施報告書で大変よい＋よいの割合（運営：73.1％／食事：53.7％／病気対応：89.7％） ・年度初めは自然教室受入れの流れの把握が不十分であり、対応の不備や遅れが生じていたが、下期にかけては改善された。 ・病気がけが等発生した際の看護の対応、病院への送迎等は適切に行われており学校からの評価も高い。				
	記 評 入 欄 委 員		【評価すべき点】特になし。 【改善すべき点】アンケートの悪いという評価の理由の把握とスタッフ全員への共有をお願いする。 【その他注意点】児童の病気・けがへの対応はアンケートで高い評価となっている。				
			31.1 (満点=50点)	31.7 (満点=50点)	30.4 (満点=50点)		

評価委員 評価意見	指定管理業務初年度であり、自然教室の運営・一般利用者への対応が行き届かない部分があったが、下半期に向けて改善がなされてきている。今後も改善に向けた企業努力を進めていただきたい。
--------------	--

【評価委員会評価結果】

評価委員会 評価結果	得点	評価
	30	B

ランクダウン
有・無

総合評価
B

※評価結果は評価委員会が行う。
※小数点以下は切り捨て、整数とする。

【指定管理者への改善要望】
前年度の利用実績を元に利用見込みを見直し、適切な開館日の設定を行うとともに、利用者を増やすために、地元の方と連携したイベントの企画や施設の魅力を伝えるホームページ・広報の充実を進めてほしい。
自然教室については、スタッフ一人一人が主体性を持って取り組むこと、また学校が作成する実施報告書の中で悪い評価があった場合は理由を把握し、スタッフ全員への共有を行い改善につなげていただきたい。

【評価委員会評価基準】

評点		評価基準						
満点	標準点	75%以上			～			54%以下
		A+	A	A-	B+	B	B-	C
50	30	45点以上	42点以上 44点以下	38点以上 41点以下	34点以上 37点以下	30点以上 33点以下	28点以上 29点以下	27点以下
得点率		90%以上	～	83%以下	67%以上	～	59%以下	54%以下

※「標準点」……評価項目が全て「3」（水準クリア）の評価を受けた場合の得点。
※「A」は満点の0.75倍以上（小数点以下切上げ）、「C」は満点の0.54倍以下（小数点以下切捨て）とする。